

1. 略 歴

令和元年6月26日現在

ふりがな 氏 名	たから かおる 寶 馨	生年 月日	昭和32年2月12日
学 歴	昭和54年3月 京都大学工学部 卒業 昭和56年3月 京都大学大学院工学研究科 修士課程修了 平成2年1月 京都大学工学博士		
現 職	京都大学 防災研究所 教授 京都大学 大学院総合生存学館 学館長 (平成29年4月より併任)	専門 分野	水文学 水資源工学 防災技術政策
年 月	職 歴		
昭和56年4月	京都大学工学部土木工学科 助手		
平成2年4月	岐阜大学工学部土木工学科 助教授		
平成4年11月	文部省在外研究員 (米国・コーネル大学、平成5年9月まで)		
平成6年4月	京都大学 防災研究所 助教授		
平成10年3月	文部省在外研究員 (英国・Institute of Hydrology、オランダ・IHE Delft、ドイツ・ルール大学 Bochum 校、平成10年5月まで)		
平成10年11月	京都大学 防災研究所 教授 (平成30年3月まで)		
平成17年4月	防災研究所 副所長 (平成19年3月まで、将来計画検討担当)		
平成21年4月	防災研究所 副所長 (平成22年9月まで、研究・教育担当)		
平成22年10月	京都大学 理事補 (平成26年9月まで併任)		
平成27年4月	防災研究所 所長 (平成29年3月まで)		
平成28年10月	京都大学 副理事 (平成29年3月まで併任)		
平成29年4月	京都大学 大学院総合生存学館 学館長 (令和3年3月まで併任)		
平成30年4月	京都大学 大学院総合生存学館 教授 (令和4年3月まで)		
年 月	非常勤教員歴		
平成16年9月	中国・中山大学 客座教授 (現在に至る)		
平成20年10月	国際連合大学 客員教授 (現在に至る)		
平成29年12月	中国・長安大学 客座教授 (現在に至る)		
平成30年10月	中国・南昌工程学院 客座教授 (現在に至る)		
年 月	受 賞 歴		
平成13年5月	土木学会論文賞「水文頻度解析に関する研究(総合題目)」		
平成15年3月	第3回世界水フォーラム「水の声プロジェクト」優秀メッセンジャー賞		
平成19年5月	土木学会論文賞「広域分布型流出予測システムの開発とダム群治水効果の評価」		
平成19年5月	土木学会国際活動奨励賞		
平成27年10月	ユネスコ国際水文学計画 (IHP) 東南アジア太平洋地域運営委員会功績賞 (同委員会より)		

平成 27 年 10 月	Distinguished Champion in Hydrology for South East Asia and the Pacific (ユネスコ・ジャカルタ事務所より)
平成 30 年 2 月	Journal of Flood Risk Management Outstanding Paper Award 2017: Highly Commended Paper, CIWEM (The Chartered Institution of Water and Environmental Management)
平成 30 年 9 月	日本環境共生学会著述賞「おだやかで恵み豊かな地球のために：地球人間圏科学入門」（古今書院）

2. 所属学協会

日本学術会議：連携会員（平成 20 年 10 月～）

防災学術連携体：幹事（平成 26 年 6 月～）

土木学会：フェロー、元・論説委員、元・水工学委員長

日本自然災害学会：会長（平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月）、理事・評議員

水文・水資源学会：副会長（平成 28 年 9 月～令和 2 年 9 月）、理事、元・総務委員長

国際斜面災害研究機構（ICL）：元・理事長、元・副会長

国際水資源学会（IWRA）：元・理事

国際総合防災学会（IDRiM）：理事

地理情報システム学会：元・防災 GIS SIG 主査

学士会：終身会員

アメリカ地球物理学連合（AGU）：終身会員

アメリカ土木学会（ASCE）

アメリカ水資源協会（AWRA）

日本工学アカデミー

日本気象学会

日本水文科学会

国際水理学会（IAHR）

国際水文科学会（IAHS）

応用統計学会

日本リモートセンシング学会

日本写真測量学会

日本河川協会

3. 大学院総合生存学館における研究教育に関する抱負

学際的な研究及び教育は、近年、特に進めてきたところである。例えば、グローバル COE プログラム「極端気象と適応社会の生存科学（GCOE-ARS）」（2009 年度～2013 年度）においては、拠点リーダーとして、所属する防災研究所、生存圏研究所、理学研究科、工学研究科、農学研究科、地球環境学堂・学舎、情報学研究科の

7部局の協力のもとに、気候変動、気象災害、水災害、水環境・水資源問題を取り扱う理工融合あるいは文理融合の学際的な研究教育プログラムを実施した。学際融合教育研究推進センターの中に「極端気象適応社会教育ユニット」（2010年2月から2017年3月）を設置してこのプログラムを実施し、博士後期課程の37人の学生にプログラム修了証を授与した。

また、博士課程教育リーディングプログラム・複合領域型（安全安心分野）「グローバル生存学大学院連携プログラム（GSS）」（2011年度～2017年度）においてはプログラムコーディネーターを務め、9研究科25専攻（教育学研究科、経済学研究科、医学研究科、理学研究科、工学研究科、農学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、情報学研究科、地球環境学堂・学舎）及び3研究所（防災研究所、生存圏研究所、東南アジア地域研究研究所）の協力のもとに5年一貫制の学位プログラムを運営している。このGSSプログラムは、これまでに80人以上の履修者があり、すでに12人の学生に対して付記型学位が与えられた（9月25日授与の1人を含む）。

総合生存学館は、学際的な大学院組織であり、博士課程教育リーディングプログラム・オールラウンド型「京都大学大学院思修館」（2011年度～2017年度）を実施している。上記二つのプログラムの経験を生かし、総合生存学館において思修館プログラムがさらに円滑に推進できるよう腐心したい。特に、入学生の数が伸び悩んでいることから、学内特別選抜、長期履修制度を既に導入しているが、短期修了制度や3年次編入制度も実現し、多様な学生を多数受け入れるよう尽力して参る所存である。

国際性もさらに高めていきたい。1996年からユネスコ国際水文学計画（IHP）に参加し、毎年、アジア太平洋地域でIHPの政府間会合及び学術シンポジウムを地域内で開催してきた。2017年4月にユネスコ本部に対して提案していたユネスコ・チェアが8月に採択された。これは、水・エネルギー・災害に焦点を絞った学際的な研究教育プログラムを実施するものである。こうしたユネスコの活動及びこれまで交流を進めてきた世界気象機関（WMO）、国連食糧農業機関（WMO）、国連国際防災戦略（UNISDR）、国連環境計画（UNEP）、国連大学（UNU）などとのネットワークを強化して、持続可能開発目標（SDGs）や仙台防災枠組（SFDRR）に貢献できるような国際的かつ実践的な共同研究及び教育活動を積極的に推進していく所存である。

4. これまでの業績の概要

水文学及び水資源工学を基礎として、我が国における水災害の防止軽減のための技術開発と普及、社会の防災力向上のための防災教育や啓発活動、防災に関する国際組織における貢献などの功績において顕著なものがある。その内容は以下のように要約することができる。

- （1）水文頻度解析及び洪水予測に関する研究：河川防災行政への技術的貢献

河川整備基本方針及び河川整備計画を立案する際、また、水工構造物の設計を行う際には、雨量や河川流量などの水文量に関わる過去の水文極値データを確率統計解析し、所定の再現期間に相当する確率水文量（100年確率流量など）を求め、計画値・設計値とする。これらの基本量を客観的に決定する技術を提案した。標準最小二乗基準（SLSC）やジャックナイフ法として知られるこの技術は、河川法が改正された平成9年前後から日本全国の河川に適用されることとなり、我が国の治水において顕著な貢献をなした。改正河川法における我が国の治水行政の透明性・客観性を確保し、住民に対する説明責任を果たす上で極めて有意義な技術を提供した。その貢献により、土木学会より論文賞を受賞している。その後、河川砂防技術基準の改定委員会の委員として加わり、調査編（平成24年6月）の改定に大きく寄与した。

河川流域の地形に関する国土数値情報を水文地形解析や降雨流出解析に応用する研究を昭和50年代（1980年頃）から先駆的に始めた。人工衛星リモートセンシングによって得られる土地利用・土地被覆や標高などの空間情報、さらには、レーダー雨量計によって得られる降雨の空間分布情報を併せて利用し、河川流域の分布定数型水文モデルの構築と洪水予測手法の開発を行った。洪水予測手法においては、時々刻々の気象・水文観測情報を利用し、流域の雨水貯留量などを状態変数として、カルマン・フィルター理論を応用したリアルタイム洪水予測手法を開発した。淀川流域の分布型洪水予測モデルの開発に関する研究により、土木学会論文賞を受賞している。

（2）防災技術政策に関する研究：防災行政への専門的見地からの貢献

国及び地方自治体等の防災関連の各種委員会に所属し、我が国の防災行政に種々の助言を与え、その発展に寄与した。

文部科学省においては、防災の研究開発に関する委員会及び防災科学技術委員会の委員を4期にわたり務めており、我が国の防災の研究開発に貴重な助言を与えている。平成15年より、独立行政法人評価委員会のもとで部会委員として防災科学技術研究所の評価に携わり、同研究所の防災研究とその運営に対し適切な評価を与えてきた。また、宇宙開発委員会及び地球観測推進部会においては、防災を専門とする立場から我が国の地球観測の実施方針などについて意見を述べている。

国土交通省においては、上述（1）の技術的貢献に加え、淀川水系流域委員会での河川整備計画の策定に協力し、また、水害に強い地域づくり委員会の座長を務めて、琵琶湖淀川流域の水害に対する地域の防災力の向上に貢献してきた。さらに、琵琶湖の水位操作による水位の変動が生態系に与える影響を調査する委員会の主査を務め、洪水・渇水災害防止と環境との関係について助言を与えている。

滋賀県においては、淡海の川づくり検討委員会の委員長を務め、滋賀県下の多数の河川の整備計画や洪水ハザードマップに関する指導を行ってきた。兵庫県・武庫川の河川整備計画や表六甲の多数の都市河川、大阪の低平な都市河川流域の洪水対策に助言を行った。福井県敦賀市の洪水ハザードマップの策定についても検討委員会の委員長を2度にわたり務め、策定と改定に大きく貢献した。

全国各地で防災・減災に関する市民集会等で講演・パネルディスカッション等を多数行い、社会や地域住民の防災意識の向上・啓発に努め、防災教育の推進に大きく貢献した。

(3) 学術・人材育成面での貢献

防災に関する多数の著書・論文・講演等と高等教育により、防災に関する学術・教育・人材育成に多大な貢献をしている。大学においては、地球温暖化及び水防災の分野での研究教育に携わり、留学生を含む多数の人材育成を行った。

水文頻度解析に関する研究成果は、上記(1)の河川行政に大きく貢献することとなり、平成13年に土木学会論文賞を受賞した。また、洪水流出予測に関する研究成果により平成19年に再び土木学会論文賞を受賞した。これらはいずれも河川流域の水防災に学術面から大きく貢献したものである。

平成13年に京都大学防災研究所に設置された自然災害研究協議会においては、設置当初より協議会の委員として、突発調査研究担当を務め国内外の災害調査研究の調整を行い、自ら朝鮮半島の台風・洪水・土砂災害の調査研究の調査団長を務めた。また、総務担当として、自然災害科学総合シンポジウムを継続的に開催するとともに、国内の災害科学・防災学に関わる研究者及び研究組織のネットワークを構築した。平成23～24年度は同協議会の議長を務めた。

日本学術会議の連携会員として、地球惑星科学委員会と土木工学・建築学委員会の合同で構成された国土・社会と自然災害分科会の委員・幹事を務め、同分科会による提言「地球環境変化に伴う水災害への適応」(平成20年6月26日)をとりまとめた。さらに、土木工学・建築学委員会に設置された地球環境の変化に伴う水害・土砂災害への対応分科会の委員として提言「気候変動下における水・土砂災害適応策の深化に向けて」(平成23年9月9日)のとりまとめに参画した。国際科学会議(ICSU)、国際社会科学会議(ISSC)及び国連国際防災戦略(UNISDR)が推進する国際共同研究IRDR(災害リスク統合研究)への対応のため土木工学・建築学委員会学際連携分科会において設置されているIRDR分科会の委員を務め、我が国の防災分野での科学的国際貢献にも参画している。

土木学会においては、平成23～24年に水工学委員長を務め、平成23年に生じたタイ・チャオプラヤ川の洪水の土木学会調査団の団長として現地調査を行った。タイの水害復興・対策事業に関する国際コンペに対応するため産学連携体制の小委員会を設置した。平成24年度から水害対策小委員会を設置し、水害に対する学術研究の振興に努めた。

日本自然災害学会においては、平成14年度から3年間、庶務担当理事を務め学会運営の中心的役割を果たすと同時に、平成17年度以後は理事・評議員に連続で選任され、引き続き同学会の運営に大きく関わってきている。平成26～28年度副会長、平成29年4月から会長に就任した。

河川防災情報を全国的に配信している一般財団法人河川情報センターの理事に就任し、防災情報提供実務に関する種々の助言を行ってきている。

人材育成面では、京都大学大学院工学研究科において水災害、地球温暖化、防災に関する研究分野で留学生を含む多数の学生を指導し、既に43人の博士（工学）を主査として指導した。

グローバルCOEプログラム「極端気象と適応社会の生存科学」（略称：GCOE-ARS、平成21年度～25年度）の拠点リーダーを務め、5研究科・2研究所からなる学際融合研究教育を実施し、地球温暖化や極端気象にともなう水災害・水環境問題に取り組む大学院生や若手研究者の育成を行った。平成22年～29年3月までの間に37人の博士学生にGCOE-ARSの履修証明書を与えた。さらに、博士課程教育リーディングプログラム「グローバル生存学大学院連携プログラム」（平成23年度～29年度）のプログラム・コーディネーターとして、9研究科（25専攻）・3研究所の協力のもとに、巨大自然災害、人為災害事故、地域環境変動、食料安全保障を含む安全安心分野での大学院レベルでの学際融合教育を実践している。

これらのプログラムでは、独立行政法人防災科学技術研究所と京都大学防災研究所が開発・管理する国際防災技術情報基盤（DRH）データベースを活用し、大学院レベルの国際防災教育を実践している。また、名古屋大学と京都大学の協力のもとに毎年行われているユネスコIHP研修コースをカリキュラムに取り入れ、同コースの海外からの正規の受講者に交じって、プログラム履修者に参加させている。

（4）防災に関する国際貢献

1990年代の国連国際防災の十年（IDNDR）に参加し、インドネシア・東ジャワの洪水・土砂災害の予測と軽減に関する国際共同研究（文部省特別事業）において大きな成果を上げた。以後、その後継組織である国連国際防災戦略（UNISDR）の学術・技術委員会（STC）に日本代表メンバーとして参画し、2007年より2年に1度ジュネーブで開催される防災グローバル・プラットフォーム会合及びSTCに出席してきた。2011年5月の第3回防災グローバル・プラットフォーム会合では、“Science meets Practice - How can Science Contribute to Risk Reduction, Disaster Management and Climate Change Adaptation?”と銘打ったサイドイベントを、京都大学防災研究所、グローバル・リスク・フォーラム（GRF Davos）、国際科学会議（ICSU）及び災害リスク統合研究（IRDR）事務局とともに主催した。

世界銀行防災グローバルファシリティー（GFDRR）成果運営審議会（RMC）の委員を務め、平成22年5月に京都市内で行われたRMC会合、京都大学桂キャンパスで行われた政策フォーラム「Sustainable Institutions and Infrastructure for Safe Communities」の開催に尽力した。

国連教育科学文化機関（ユネスコ）国内委員会委員、ユネスコ国際水文学計画（IHP）国内委員会委員長（自然科学小委員会IHP分科会主査）、IHP東南アジア太平洋地域運営委員会の事務局長、さらにはユネスコ本部における政府間理事会の副議長（2008-2010）、財務委員会委員（2012-2016）、日本代表団の団長（2008, 2010, 2012, 2014年の4回）を務めている。これらのIHP中期事業計画において水災害課題の導入に尽力している。上述の国際防災技術情報基盤（DRH）データベースの構築においては、「国際的な防災科学技術情報基盤形成に関する懇談会（DRH-Japan Board）」の座長を務めた。その後、DRHをIHPでも活用し、2009年から毎年4回にわ

たってDRH-IHP国際ワークショップを開催するなど、水災害に関する国際防災技術情報の導入とアジア太平洋地区への普及にも寄与している。これら20年にわたる貢献により、ユネスコ国際水文学計画（IHP）東南アジア太平洋地域運営委員会より功績賞を受けるとともに、ユネスコ・ジャカルタ事務所よりDistinguished Champion in Hydrology for South East Asia and the Pacific として表彰された。

平成14年（2002年）の国際斜面災害研究機構（ICL）の設立に参画し、その後、理事長、副会長を歴任してきた。UNESCO、京都大学、ICLは、2003年3月にUNITWIN共同計画「社会と環境に資する斜面災害危険度軽減」の設立に合意し、その本部を京都大学宇治構内に設立した。2010年11月にこの共同計画は「社会と環境に資する斜面・水関連災害のリスク管理」とその範囲が拡大された。ICLには、現在、世界35カ国から60機関が参加しており、地すべりに関する隔月誌 Landslides（2015年 Impact factor：3.049, 2016年出版ページ：1500 pages）を発行するとともに、世界21ヶ国で45課題の国際斜面災害研究プロジェクトを実施している。また、2008年より、3年に1度、斜面防災世界フォーラムを開催してきた（東京、ローマ、北京、リュブリアナ）。このように地すべり災害に関する国際的な研究教育ネットワークを構築し、水・土砂災害関連の国際共同研究及び人材育成に大きく貢献してきた。

平成15年3月には、京都・大阪・滋賀で開催された第3回世界水フォーラム・水の声プロジェクト優秀メッセンジャー賞を橋本龍太郎・元内閣総理大臣より受賞した。また、上記の国際活動が学会においても評価され、平成19年5月には土木学会国際活動奨励賞を受賞している。また、平成30年5月に古今書院より出版した「おだやかで恵み豊かな地球のために：地球惑星科学入門」（鈴木・山岡・寶 編著）は同年9月には日本環境共生学会から著述賞を受賞した。

平成30年4月には、京都大学に水・エネルギー・災害研究に関するユネスコ・チェア（WENDI）を設立し、同年7月にキックオフ国際シンポジウムを開催、平成31年（令和元年）からは、6つのコースからなるHESD（持続可能開発高等教育）プログラムを始めている。

5. 研究業績等

(1) 著書など（いずれも共著、部分執筆）

1. 『Impacts of Climate and Human Activities on Water Resources and Quality: Integrated Regional Assessment』 (Springer, 2020年3月)
2. 『水理公式集2018年版』 (土木学会, 丸善出版, 2019年3月)
3. 『おだやかで恵み豊かな地球のために: 地球人間圏科学入門』 (古今書院, 2018年) 日本環境共生学会著述賞受賞 (2018年9月)
4. 『Living Land』 (UNCCD, UNDDD, Tudor Rose, 2015年)
5. 『事例・演習でよくわかる水理学』 (コロナ社, 2015年)
6. 『Free Flow: Reaching Water Security Through Cooperation』 (UNESCO, Tudor Rose, 2013年)
7. 『全世界の河川事典』 (丸善出版, 2013年)
8. 『自然災害と防災の事典』 (丸善出版, 2011年)
9. 『災害対策全書』 第1巻 災害概論 (ぎょうせい, 2011年)
10. 『川の百科事典』 (丸善, 2009年)
11. 『Biogeography and Biodiversity』 (Rawat Publications, Jaipur, India, 2009年)
12. 『国連国際防災戦略防災用語集』 (内閣府, 2009年版) 日本語版翻訳作成協力。
13. 『建築学大百科事典』 (朝倉書店, 2008年)
14. 『エース水文学』 (朝倉書店, 2006年)
15. 『Natural Hazards & Disaster Management: Vulnerability and Mitigation』 (Rawat Publications, Jaipur, India, 2006年)
16. 『緑のダム』 (築地書館, 2004年)
17. 『GIS and Remote Sensing in Hydrology, Water Resources and Environment』 (IAHS, 2004年)
18. 『新領域土木工学ハンドブック』 (朝倉書店, 2003年)
19. 『風水害論』 防災学講座〈1〉 (山海堂, 2003年)
20. 『地球環境調査計測事典』 第1巻 陸域編 (フジ・テクノシステム, 2003年)
21. 『防災学ハンドブック』 (朝倉書店, 2002年)
22. 『水理公式集例題プログラム集(平成13年度版)』 (土木学会, 丸善, 2002年)
23. 『Global Warming, The Potential Impact on Japan』 (Springer-Verlag, Tokyo, 1998年)
24. 『水循環と流域環境』 岩波講座 地球環境学〈7〉 (岩波書店, 1998年)
25. 『地球温暖化と日本-自然・人への影響予測-』 (古今書院, 1997年)
26. 『水文・水資源ハンドブック』 (朝倉書店, 1997年)
27. 『土木情報処理の基礎—FORTRAN77に即して』 (土木学会, 1988年)

(2) 学術雑誌等論文 (査読あり)

2020年

1. Bahareh Kamranzad, George Lavidas, Kaoru Takara, Spatio-temporal assessment of climate change impact on wave energy resources using various time dependent criteria, *Energies*, 13, DOI: 10.3390/en13030768, 2020.2.

2019年

2. 佐山敬洋・清水涼太郎・井口真生子・南 良忠・赤穂良輔・寶 馨: 現地情報の同化による浸水深分布の推定—実用手法の提案と平成30年7月豪雨による小田川水害への適用—, *土木学会論文集 B1(水工学)*, 75, 2, L1465-L1470, 2019.11.
3. 山本浩大・佐山敬洋・Apip・寶 馨: 湿润熱帯流域における降雨流出氾濫モデルの適用性に関する研究, *土木学会論文集 B1(水工学)*, 75, 2, L253-L258, 2019.11
4. 菅原快斗・佐山敬洋・寶 馨: 分布型モデルへの適用を目的とした鉛直浸透流の観測とリチャーズ式の解析解による再現計算, *土木学会論文集 B1(水工学)*, 75, 2, L1243-L1248, 2019.11.
5. Maochuan Hu, Takahiro Sayama, Sopal Try, Shigenobu Tanaka, Kaoru Takara, Kenji Tanaka, Trend Analysis of Hydroclimatic Variables in the Kamo River Basin, Japan, *Water*, 11, 9, 1782
<https://doi.org/10.3390/w11091782>, 2019.8.
6. 佐山 敬洋・三宅慎太郎・寶 馨: 分布型流出モデルの誤差構造分析と多地点水位データ同化手法, *河川技術論文集*, 25, 285-290, 2019.6.
7. Saima Riaz, Gonghui Wang, Muhammad Bashara and Kaoru Takara, Experimental investigation of a catastrophic landslide in northern Pakistan, *Landslides* 16, Issue 10: 2017-2032, 2019.6.
8. Han Xue, Takahiro Sayama, Kaoru Takara, Bin He, Guangwei Huang and Weili Duan, Non-point source pollution estimation in the Pingqiao River Basin, China, using a spatial hydrograph-separation approach, *Hydrological Sciences Journal*, DOI:10.1080/02626667.2019.1617867
9. Yongxue Shi, Takahiro Sayama, Kaoru Takara and Kiyonori Ohtake, Detecting flood inundation information through Twitter: The 2015 Kinu River flood disaster in Japan, *Journal of Natural Disaster Science*, 40(1):1-13, 2019.6.

2018年

10. Kaoru Takara, Promotion of Interdisciplinary and Transdisciplinary Collaboration in Disaster Risk Reduction, *Journal of Disaster Research*, 13(7), pp. 1193-1198, 2018.11.
11. Toshio Koike, Haruo Hayashi, Kenji Satake, Kenichi Tsukahara, Akiyuki Kawasaki, Yusuke Amano, Kaoru Takara, Setsuko Saya, Naohiro Nishiguchi, Satoru Nishikawa, Keiko Tamura, Kenzo Hiroki, Rajib Shaw and Tetsuya Ikeda, Role Played by Science and Technology in Disaster Risk Reduction: From Framework Planning to Implementation, *Journal of Disaster Research*, 13(7), pp. 1222-1232, 2018.11.
12. Luo, P., D. Mu, H. Xue, N.-D. Thanh, D.-D. Kha, K. Takara, D. Nover and G. Schladow, Flood inundation assessment for the Hanoi Central Area, Vietnam under historical and extreme rainfall conditions, *Nature Scientific Reports* (2018) 8:12623, pp. 1-11, DOI:10.1038/s41598-018-30024-5
13. Pham Van Tien, Kyoji Sassa, Kaoru Takara, Hiroshi Fukuoka, Khang Dang, Tatsuya Shibasaki, Nguyen Duc Ha, Hendy Setiawan, Doan Huy Loi, Formation Process of two massive dams following rainfall-induced deep-seated

rapid landslide failures in the Kii Peninsula of Japan, Landslides, DOI 10.1007/s10346-018-0988-y, 2018.5 (published on line)

14. 佐山 敬洋, 小林 亮祐, 寶 馨: 現地情報の同化による浸水深分布の推定 -平成 27 年 9 月鬼怒川洪水を対象にした検証-, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol. 75, No. 4, I_1507-I_1512, 2018.11.
15. 佐山敬洋・寶 馨, リアルタイム浸水ハザードマッピングのための現地浸水情報同化技術, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol. 74, No. 4, pp. I_1297-I_1307, 2018.3.
16. Eva Mia Siska, Takahiro Sayama and Kaoru Takara, Spatial and Seasonal Variabilities of water use and availability in Bali, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 74, No. 4, pp. I_1333-I_1338, 2018.3.
17. 石原正仁・寶 馨, 2012 年 8 月 13, 14 日に宇治市周辺に発生した大雨:第1部 大雨をもたらした線状降水帯群のメソ構造, 天気, 日本気象学会, 65(1), pp. 5-23, 2018.1.
18. 黒瀬陽平・寶 馨・LUO Pingping・石原正仁, 2012 年 8 月 13, 14 日に宇治市周辺に発生した大雨:第2部 宇治市志津川の増水・氾濫の実態把握と予測可能性, 天気, 日本気象学会, 65(3), pp. 3-15, 2018.3.
19. Mahua Mukherjee and Kaoru Takara, Urban green space as a countermeasure to increasing urban risk and the UGS-3CC resilience framework, International Journal of Disaster Risk Reduction, Vol. 28, pp. 854-861, June 2018. doi.org/10.1016/j.ijdr.2018.01.027
20. Luo, P., Apip, B. He, W. Duan, K. Takara, and D. Nover, Impact assessment of rainfall scenarios and land-use change on hydrologic response using synthetic Area IDF curves, Journal of Flood Risk Management, Vol. 11, Issue S1, pp. S48-S97, DOI: 10.1111/jfr.12164, 2018.1.

2017 年

21. Josko Torselj, Takahiro Sayama, Sergey M. Varamov, Toshiharu Sasaki, Marie-Fanny Racault, Kaoru Takara, Yasumasa Miyazawa, Ryusuke Kuroki, Toshio Yamagata and Yosuke Yamashiki, Modeling of extreme freshwater outflow from the north-eastern Japanese river basins to western Pacific Ocean, Journal of Hydrology, Vo. 555, pp. 956-970, doi.org/10.1016/j.jhydrol.2017.10.042, 2017.12.
22. 後 拓真・佐山敬洋・寶 馨・横松宗太, 福岡県海水淡水化施設の費用便益と渇水被害の軽減効果に関する研究, 土木学会論文集, G(地球環境研究論文集), Vol.73, No. 5, I_141-I_147, 2017.
23. 佐山敬洋・田中茂信・寶 馨, 分布型流出モデルと時空間起源追跡法による鬼怒川洪水の流出解析, 水文・水資源学会誌, 第 30 巻, 第 3 号, pp. 89-100, 2017.5.
24. Maochuan Hu, Takahiro Sayama, Weili Duan, Kaoru Takara, Bin He, Pingping Luo, Assessment of hydrological extremes in the Kamo River Basin, Japan, Hydrological Sciences Journal, pp. 1255-1265, 2017.4, doi:10.1080/02626667.2017.1319063, 2017.4.
25. Doan Huy Loi, Lam Huu Quang, Kyoji Sassa, Kaoru Takara, Khang Dang, Nguyen Kim Thanh and Pham Van Tien, The 28 July 2015 rapid landslide at Ha Long City, Quang Ninh, Vietnam, Landslides, 14(3), pp. 1207-1215, doi:10.1007/s10346-017-0814-y, 2017.3.
26. Maochuan Hu, Takahiro Sayama, Xingqi Zhang, Kenji Tanaka, Kaoru Takara and Hong Yang, Evaluation of low impact development approach for mitigating flood inundation at a watershed scale in China, Journal of Environmental Management, 193, pp. 430-438, doi:10.1016/j.jenvman.2017.02.020, 2017.2.
27. Khai Lin Chong, Takahiro Sayama, Kaoru Takara, Ismail Abustan, Effects of diffusive wave and flood inundation on time of concentration, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 73, No. 4, I_151-I_156, 2017.2.

28. Karlina, Takahiro Sayama, Kaoru Takara, Low flow forecasting with recession analysis approaches, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 73, No. 4, L163-L168, 2017.2.
29. Han Xue, Takahiro Sayama, Kaoru Takara, Bin He, Weili Duan, Hydrograph-separation-based non-point source pollution modelling in the Pingqiao river basin, China, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 73, No. 4, L169-L174, 2017.2.
30. Duan, W., He, B., Sahu, N., Luo, P., Nover, D., Hu, M. and Takara, K., Spatiotemporal variability of Hokkaido's seasonal precipitation in recent decades and connection to water vapour flux. International Journal of Climatology. doi:10.1002/joc.4946, 2017.7
31. Sahu, N., A. W. Robertson, R. Boer, S. Behera, D. G. DeWitt, K. Takara, M. Kumar, and R. B. Singh, Probabilistic seasonal streamflow forecasts of the Citarum River, Indonesia, based on general circulation models, Stochastic Environmental Research and Risk Assessment, 31(7): pp. 1747-1758, 2017, DOI: 10.1007/s00477-016-1297-4.

2016 年

32. 佐山敬洋・竇 馨, 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨に伴う鬼怒川氾濫の浸水深分布推定, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol. 72, No. 4, L1171-L1176, 2016.2
33. Khang Dang, Kyoji Sassa, Hiroshi Fukuoka, Naoki Sakai, Yuji Sato, Kaoru Takara, Lam Huu Quang, Doan Huy Loi, Pham Van Tien and Nguyen Duc Ha, Mechanism of two rapid and long-runout landslides in the 16 April 2016 Kumamoto earthquake using a ring-shear apparatus and computer simulation (LS-RAPID), Landslides, 13(6), 1525-1534, 2016.12.
34. Setiawan, H., K. Sassa, K. Takara, T. Miyagi, and H. Fukuoka, Initial Pore Pressure Ratio in the Earthquake Triggered Large-scale Landslide near Aratozawa Dam in Miyagi Prefecture, Japan, Procedia Earth and Planetary Science, 16, 61-70, DOI: 10.1016/j.proeps.2016.10.007, 2016.
35. Kobayashi, K., Takara, K., Sano, H., Tsumori, H. and Sekii, K., A high-resolution large-scale flood hazard and economic risk model for the property loss insurance in Japan, Journal of Flood Risk management, Volume 9, Issue 2, 136-153, 2016.6.
(Outstanding Paper Award 2017, Highly Commended Paper を受賞、2018 年 2 月)
36. Maochuan Hu, Takahiro Sayama, Shusuke Takahashi and Kaoru Takara: Impact assessment of human activities and climate change on annual runoff in the Kamo River basin, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 72, No. 4, L451-L456, 2016.2.
37. Dayong Shen, Kaoru Takara, Yuling Liu. 3D GIS Modeling of Soft Geo-Objects: Taking Rainfall, Overland Flow, and Soil Erosion as an Example. In book: P. Imperatore and A. Pepe (Eds.), Geospatial Technology - Environmental and Social Applications. DOI: 10.5772/64376, 2016.

2015 年

38. Luo, P., B. He, K. Takara, Y. E. Xiong, D. Nover, W. Duan, and K. Fukushi, Historical assessment of Chinese and Japanese flood management policies and implications for managing future floods, Environmental Science & Policy, 48, 265-277, 2015.
39. Duan, W. L., He, B., Takara, K., Luo, P. P., Nover, D., Hu, M. C., Modeling suspended sediment sources and transport in the Ishikari River basin, Japan, using SPARROW, Hydrology and Earth System Sciences, doi:10.5194/hess-19-1293-2015, 19, 1293-1306, 2015.

40. Pham Hong Nga, Kaoru Takara, Nguyen Hoang Son, Flood hazard impact analysis in the downstream of Vu Gia - Thu Bon River system, Qang Nam province, Central Vietnam, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 71, No. 4, L157-L162, 2015.

2014 年

41. Duan Weili, He Bin, Takara Kaoru, Luo Pingping, Nover Daniel, Yamashiki Yosuke, Huang Wenrui, Anomalous atmospheric events leading to Kyushu's flash floods, July 11-14, 2012, Natural Hazards, , 73, pp1255-1267, DOI:10.1007/s11069-014-1134-3, 2014.
42. Sassa K, Dang K, He B, Takara K, Inoue K, Nagai O., A new high-stress undrained ring-shear apparatus and its application to the 1792 Unzen-Mayuyama megaslide in Japan. *Landslides* 11(5): 827-842, 2014.
43. Sawai Nobuhiko, Kobayashi Kenichiro, Apip, Takara Kaoru, Ishikawa Hirohiko, Yokomatsu Muneta, Samaddar Suhajyoti, Juati Ayilari-Naa, Kranjac-Berisavljevic Gordana, Impact of Climate Change on River Flows in the Black Volta River, Journal of Disaster Research, 4(9), 432-442, 2014.
44. Luo Pingping, Takara Kaoru, Apip, He Bin, Nover Daniel, Palaeoflood simulation of the Kamo River basin using a grid-cell distributed rainfall run-off model, Journal of Flood Risk Management, DOI: 10.1111/jfr.12038, 7(2), 182-192, 2014.
45. Luo, P., Takara, K., Apip, He, B., Nover, D., Reconstruction assessment of historical land use: A case study in the Kamo River basin, Kyoto, Japan, Computers & Geosciences, 63, 106-115, 2014.
46. 小林健一郎、奥勇一郎、中北英一、中野満寿男、寶 馨、伊勢湾台風疑似温暖化実験による淀川流域における洪水規模の変化予測, 土木学会論文集, B1(水工学), Vol.70, No.4, I_391-I_396, 2014.

2013 年

47. Chaffe, P.L.B., K. Takara, Y. Yamashiki, Apip, P. Luo, R.V. Silva, E. Nakakita, Mapping of Japanese areas susceptible to snow cover change, Hydrological Sciences Journal, DOI: 10.1080/02626667.2013.839, Vol. 1, No. 58(8), 1-11, 2013.
48. He B, Duan W., Luo P., Kaoru TAKARA, Yosuke YAMASHIKI, Cause Mechanism and GIS Based Spatiotemporal Analysis of Anthropogenic Environmental Disasters in Eastern Asia, Journal of Disaster Research, Vol.8, No.1, 171-172, 2013.
49. Kenichi Tatsumi, Yosuke Yamashiki, Kaoru Takara, Eiichi Nakakita, Reproducibility of Crop Yield Simulated by iGAEZ Model with High-resolution GCM Output, Journal of Agricultural Science and Application, Vol. 2, No. 2, pp. 124-130, 2013.
50. Luo P., Bin HE, Pedro Luiz Borges CHAFFE, Daniel NOVER, Kaoru TAKARA and Mohd Remy Rozainy M.A.Z., Statistical analysis and estimation of annual suspended sediments of major rivers in Japan, Environmental Science: Processes & Impacts, March 18, online, DOI: 10.1039/c3em30777h, 15, pp. 1052-1061, 2013.
51. Nor Eliza Alias, Pingping LUO, Kaoru TAKARA, Probable maximum precipitation using statistical method for the Yodo river basin, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1 (Hydraulic Engineering), Vol.69, No. 4, L157-L162, 2013.
52. Netrananda Sahu, Swadhin K. Behera, J V Ratnam, Roberto Valmir Da Silva, Pradipta Parhi, Weili Duan, Kaoru Takara, R.B. Singh, El Nino Modoki connection to extremely-low streamflow of the Paranaiba River in Brazil, Climate Dynamics, DOI:10.1007/s00382-013-2006-3, 2013.
53. Souma Kazuyoshi, Tanaka Kenji, Suetsugi Tadashi, Sunada Kengo, Nakakita Eiichi, Takara Kaoru, Oishi Satoru, Effects of soil moisture on a summertime convective rainfall over mountainous area and its contiguous

plain in central Japan, International Association of Hydrological Sciences (IAHS) Publication, 359, pp.246–252, 2013.

54. Weili Duan, Kaoru Takara, Bin He, Pingping Luo, Daniel Novar and Yosuke Yamashiki, Spatial and temporal trends in estimates of nutrient and suspended sediment load in the Ishikari River, Japan 1985 to 2010, Science of the Total Environment, vol. 461, pp. 499–508, 2013.9.
55. Young-a SHIN, Kaoru TAKARA, Maja OSTRIC, Depth–Area–Duration Analysis in a Korean River Basin, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1 (Hydraulic Engineering)(土木学会論文集 B1(水工学)), Vol. 69, No. 4, L151–L156, 2013.
56. 荒川英誠、寶 馨, 可能最大降水量の推定と2011年紀伊半島水害, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol. 69 (4), L277–L282, 2013.
57. 小林健一郎、大塚成徳、寶 馨、折口征二、斉藤和雄, 中小河川流域における豪雨・洪水のアンサンブル予測, 土木学会論文集 B1(水工学), Vol. 69, No. 4, L1597–L1602, 2013.
58. Nobuhiko Sawai, Kaoru Takara and Kenichiro Kobayashi, Evaluation of water retention capacity and flood control function of the forest catchment, Journal on Food, Agriculture and Society, Vol 1, No 1, pp. 13–22, 2013.
59. Kobayashi, K. and Takara, K., Development of a Distributed Rainfall–Runoff/Flood Inundation Simulation and Economic Risk Assessment Model, Journal of Flood Risk Management, Volume 6, Issue 2, pp. 85–98, June 2013 (DOI:10.1111/j.1753–318X.2012.01157.x, 2012, Aug.).

2012年

60. CHAFFE P. L. B., Yosuke YAMASHIKI, Kaoru TAKARA, Maho IWAKI, Measurement and modeling of the snowmelt in the Arno river basin, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), Vol.56, pp. 223–228, 2012.
61. Duan W., Bin HE, Kaoru TAKARA, Luo P., Yosuke YAMASHIKI, Estimating the Sources and Transport of Nitrogen Pollution in the Ishikari River Basin, Japan. Advanced Materials Research, 518, 3007–3010, doi: 10.4028/www.scientific.net/AMR.518–523.3007, 2012.
62. He B, Oki K, Wang Y, Oki T, Yamashiki Y, Takara K et al., Analysis of Stream Water Quality and Estimation of Nutrient Load with the Aid of Quick Bird Remote Sensing Imagery. Hydrological Science Journal, 57(5), 850–860, 2012.
63. Luo P., Kaoru TAKARA, APIP, Bin HE, Daniel NOVER, and Yosuke YAMASHIKI, Land use change analysis and paleo-flood in the Kamo River basin, Kyoto, Japan, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), Vol.56, L127–L132, 2012.
64. Sassa, K., Bin He, Miyagi, T., Strasser, M., Konagai, K., Ostric, M., Setiawan, H., Takara, K., Nagai, O., Yamashiki, Y., Tutumi, S. A hypothesis of the Senoumi submarine megaslide in Suruga Bay in Japan –based on the undrained dynamic-loading ring shear tests and computer simulation. Landslides, Vol. 9, No. 4, pp. 439–455, DOI:10.1007/s10346–012–0356–2, 2012.
65. Netrananda SAHU, Yosuke YAMASHIKI, Swadhin BEHERA, Kaoru TAKARA, Toshio YAMAGATA, Large impacts of Indo–pacific climate modes on the extreme streamflows of Citirum river in Indonesia, Journal of Global Environmental Engineering, Vol.17, pp.1–8, JSCE, 2012.
66. Yosuke YAMASHIKI, Mohd Remy Rozainy MAZ, Taku MATSUMOTO, Tamotsu TAKAHASHI, Kaoru TAKARA, Experimental study of debris particles movement characteristics at low and high slope, Journal of Global Environmental Engineering, JSCE, 50, pp.231–241, 2012.

67. 小林健一郎、寶 馨、佐野 肇、津守博通、関井勝善、損害保険に応用可能な国土基盤情報準拠型の分布型降雨流出・洪水氾濫モデルの開発, 土木学会論文集 B1(水工学), 第 56 卷, I-1069-I-1074, 2012.
68. Yosuke YAMASHIKI, Mohd Remy Rozainy MAZ, Taku MATSUMOTO, Tamotsu TAKAHASHI, Kaoru TAKARA: Simulation and calibration of hydro-debris 2d model (HD2DM) to predict the particle segregation processes in debris flow, Journal of Civil Engineering and Architecture. 6(6):690-698. ISSN 1934-7359. 2012.
69. T. Wu, K. Takara, Y. Yamashiki: The vulnerability variation from government roles in disaster risk reduction plans for sediment disasters in Taiwan, Hydrological Processes, 26, 16, pp. 2421-2430, 2012.
70. Bin He, Kazuo Oki, Yi Wang, Taikan Oki, Yosuke Yamashiki, Kaoru Takara, Shingo Miura, Akio Imai, Kazuhiro Komatsu, Nobuyuki Kawasaki: Stream nutrient characteristic analysis and water quality load estimation with the aid of Quick Bird remote sensing imagery, Hydrological Sciences Journal 57(5): 850-860, 2012.

2011 年

71. APIP, K. Takara, Y. Yamashiki, Spatially-distributed assessment of sediment yield and shallow landslide potential area in the upper Citarum River basin, Indonesia, In: Sediment Problems and Sediment Management in Asian River Basins, IAHS Publ., No. 349, pp. 130-140, 2011.
72. Bin He, Shinjiro Kanae, Taikan Oki, Yosuke Yamashiki, Kaoru Takara, Assessment of global nitrogen pollution in rivers using an integrated biogeochemical modeling framework, Water Research, 55, pp. 2573-2586, doi:10.1016/j.watres.2011.02.011, 2011.
73. Pingping Luo, Bin He, Kaoru Takara, Bam H. N. Razafindrabe, Daniel Nover, Yosuke Yamashiki Spatiotemporal trend analysis of recent river water quality conditions in Japan, Journal of Environmental Monitoring, doi:10.1039/C1EM10339C, 13, pp. 2819-2829, 2011.
74. Luo P., Kaoru TAKARA, Bin HE, Wenqiang CAO, Yosuke YAMASHIKI, and Daniel NOVER, Calibration and uncertainty analysis of SWAT model in a Japanese river catchment, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1(Hydraulic Engineering), Vol.67, No.4, I_61-I_66, 2011.
75. Roberto Valmir DA SILVA, Yosuke YAMASHIKI, Kaoru TAKARA, Evaluating the potential effect of land use change on discharge of the Amazon basin through residual analysis, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. G (Environment), 67(5), I_217-I_222, 2011.
76. Roberto Valmir DA SILVA, Yosuke YAMASHIKI, Kaoru TAKARA: Evaluating a Multi-Velocity Hydrological Parameterization in the Amazon Basin, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1(Hydraulic Engineering), Vol.67, No.4, I_49-I_54, 2011.
77. Mandira Singh SHRESTHA, Kaoru TAKARA, Takuji KUBOTA, Sagar Ratna BAJRACHARYA, Verification of GSMaP Rainfall Estimates over the Central Himalayas, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1(Hydraulic Engineering), Vol.67, No.4, I_37-I_42, 2011.
78. Netrananda Sahu, Swadhin K. Behera, Yosuke Yamashiki, Kaoru Takara, Toshio Yamagata, IOD and ENSO impacts on the extreme stream-flows of Citarum river in Indonesia, Climate Dynamics, DOI: 10.1007/s00382-011-1158-2, 2011.
79. Kenichi Tatsumi, Yosuke Yamashiki, Roberto Valmir da Silva, Kaoru Takara, Yuzuru Matsuoka, Kiyoshi Takahashi, Koki Maruyama, Naoko Kawahara, Estimation of potential changes in cereals production under climate change scenarios, Hydrological Processes, 25, 2715-2725, DOI: 10.1002/hyp.8012, 2011.
80. Kenichi Tatsumi, Yosuke Yamashiki, Kaoru Takara, Effect of uncertainty in temperature and precipitation inputs and spatial resolution on the crop model, Hydrological Research Letters 5, 52-57, DOI:10.3178/HRL.5.52, 2011.

81. 辰己賢一、山敷庸亮、寶 馨, Validation of A Global Rice Yields Model and Climate Change Impact Projection, 米のグローバルな収量算定モデルの再現性評価と気候変動影響予測, 土木学会論文集 G(環境), Vol.67, No.5, 1.81-1.90, 2011.
82. 大泉 伝、山敷庸亮、寶 馨, ヒマラヤにおける氷河湖の水溫構造再現の試み, 土木学会論文集 B1(水工学)Vol.67, No.4, 1.415-1.420, 2011.
83. 小林健一郎、寶 馨、奥勇一郎, 統合型降雨流出・洪水氾濫モデルによる佐用町洪水災害分析と経済被害推定, 土木学会論文集 B1(水工学)Vol.67, No.4, 1.949-1.954, 2011.
84. Kaoru Takara, Sustainability/Survivability Science for a Resilient Society Adaptable to Extreme Weather Conditions, Asian Journal of Environment and Disaster Management, 3(2), pp. 123-136, 2011.

2010 年

85. APIP, Kaoru TAKARA, Yosuke YAMASHIKI, Kyoji SASSA, Agung Bagiawan Ibrahim, Hiroshi FUKUOKA, A Distributed Hydrological-Geotechnical Model Using Satellite-Derived Rainfall Estimates for Shallow Landslide Prediction System at a Catchment Scale, Landslides, 7(3), pp. 237-258, doi: 10.1007/s10346-010-0214-z, 2010.
86. APIP, Takahiro Sayama, Takashi Sayama, Kaoru Takara, Yosuke Yamashiki, Assessing sources of parametric uncertainty and uncertainty propagation in sediment runoff simulations of flooding, Journal of Flood Risk Management, 3(4), pp. 270-284, doi: 10.1111/j.1753-318X.2010.01077.x, 2010.
87. Sunmin KIM, Yasuto TACHIKAWA, Eiichi NAKAKITA, Kaoru TAKARA, Hydrologic Evaluation on the AGCM20 Output Using Observed River Discharge Data, Hydrological Research Letters, 4, 35-39, DOI: 10.3178/HRL.4.35, 2010.
88. Sunmin KIM, Eiichi NAKAKITA, Yasuto TACHIKAWA, Kaoru TAKARA, Precipitation changes in Japan under the A1B climate change scenario, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), 54, pp. 127-132, 2010.
89. Pedro Luiz Borges CHAFFE, Masato KOBAYAMA, Yosuke YAMASHIKI, Kaoru TAKARA, Is interception information important for rainfall-runoff modeling?, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), 54, pp. 73-78, 2010.
90. Tingyeh WU, Kaoru TAKARA, Yosuke YAMASHIKI, A case study of vulnerability assessment in the sediment hazardous area by decision analysis, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), 54, pp. 13-18, 2010.
91. Binaya Kumar MISHRA, Kaoru TAKARA, Yosuke YAMASHIKI, Yasuto TACHIKAWA, An assessment of predictive accuracy for two regional flood-frequency estimation methods, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), 54, pp. 7-12, 2010.
92. 佐山敬洋、立川康人、菅野浩樹、寶 馨, 分布型流出モデルと動的計画法の統合による貯水池制御最適化シミュレータの開発, 水工学論文集, 土木学会, 54, pp. 547-552, 2010.
93. 山敷庸亮、辰己賢一、鈴木琢也、Roberto DA SILVA, 寶 馨, 世界流域データベースの利用による大陸河川における流出解析に関する研究 水工学論文集, 土木学会, 54, pp. 481-486, 2010.
94. Roberto Valmir DA SILVA, Yosuke YAMASHIKI, Kenichi TATSUMI, Kaoru TAKARA, Large-scale runoff routing modeling using TOPMODEL, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), 54, pp. 91-96, 2010.
95. 小林健一郎、寶 馨、中北英一, 全球気候モデル出力と洪水及び経済被害推定モデルを用いた中小河川の水害リスクの将来変動に関する研究 河川技術論文集, 土木学会, 第 16 巻, pp. 495-500, 2010.

96. 小林健一郎、宝 馨、中北英一、全球気候モデル出力を用いた日本域の100年確率日降水量の将来予測、水工学論文集、土木学会、54、pp. 223-228、2010。
97. Yosuke Yamashiki, Masato Kato, Kaoru Takara, Eiichi Nakakita, Michio Kumagai, Chunmeng Jiao, Sensitivity Analysis on Lake Biwa under the A1B SRES climate change scenario using Biwa-3D Integrated Assessment Model: part I - projection of lake temperature, Hydrological Research Letters, 4, pp. 45-49, DOI: 10.3178/HRL.4.45, 2010.

2009年

98. Sunmin Kim, Yasuto Tachikawa, Takahiro Sayama and Kaoru Takara: Ensemble flood forecasting with stochastic radar image extrapolation and a distributed hydrologic model, Hydrological Processes, vol. 23, issue 4, pp. 597-611, doi: 10.1002/hyp.7188, 2009.
99. Binaya Kumar Mishra, TAKARA Kaoru, YAMASHIKI Yosuke and TACHIKAWA Yasuto: Hydrologic simulation aided regional flood frequency analysis of Nepalese river basins, Journal of Flood Risk Management, 4(2), pp. 243-253, DOI:10.1111/j.1753-318X.2009.01041x, 2009.
100. Binaya Kumar Mishra, TAKARA Kaoru and TACHIKAWA Yasuto: Integrating the NRCS Runoff Curve Number in Delineation of Hydrologic Homogeneous Regions, Journal of Hydrologic Engineering, ASCE, 14, pp. 1091-1097, doi:10.1061/(ASCE)HE.1943-5585.0000101, 2009.
101. Binaya Kumar Mishra, TAKARA Kaoru, YAMASHIKI Yosuke and TACHIKAWA Yasuto: Estimation of Index Flood in Hydrologic Regions with Limited Flood Data Availability, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集、土木学会), 53, pp. 55-60, 2009.
102. LEE Giha, TACHIKAWA Yasuto, SAYAMA Takahiro and TAKARA Kaoru, Effect of Spatial Variability of Rainfall on Catchment Responses in Mesoscale Mountainous Area, 53, pp. 7-12, 2009.
103. MONDONEDO Carlo, TACHIKAWA Yasuto and TAKARA Kaoru: Neyman-Scott Rainfall Model Parameters as Indicators of Temporal Change in Historical Rainfall, 53, pp. 109-114, 2009.
104. KIM Sunmin, TACHIKAWA Yasuto, NAKAKITA Eiichi and TAKARA Kaoru: Reconsideration of Reservoir Operations Under Climate Change: Case Study with Yagisawa Dam, Japan, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集、土木学会), 53, pp. 115-120, 2009.
105. Nanshan ZHENG, Kaoru TAKARA, Yosuke YAMASHIKI and Yasuto TACHIKAWA: Assessing Vulnerability to Regional Flood Hazard through Spatial Multi-Criteria Analysis in the Huaihe River Basin, China, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE, Vol.53, pp.127-132, 2009.
106. 宝 馨・小林健一郎: 標本サイズと水文頻度解析, 水工学論文集, 土木学会, pp. 205-210, 2009.
107. 小林健一郎・宝 馨: 雨域の移動が流域の降雨流出・洪水氾濫過程に及ぼす影響, 水工学論文集, 土木学会, 53, pp. 841-846, 2009.
108. WU Tingyeh, TAKARA Kaoru and MONDONEDO Carlo: Basic Assessment of Vulnerability Based on the Policies of the Mitigation Program for Typhoon Disasters in Taiwan, 水工学論文集, 土木学会, 53, pp. 589-594, 2009.
109. TAKARA Kaoru, KIM Sunmin, TACHIKAWA Yasuto and NAKAKITA Eiichi: Assessing Climate Change Impact on Water Resources in the Tone River Basin, Japan, Using Super-High-Resolution Atmospheric Model Output, Journal of Disaster Research, vol. 4, no. 1, pp. 12-23, 2009.
110. LEE Giha, TACHIKAWA Yasuto and TAKARA Kaoru: Interaction between Topographic and Process Parameters due to the Spatial Resolution of DEMs in Distributed Rainfall-Runoff Modeling, Journal of Hydrologic Engineering, ASCE, doi:10.1061/(ASCE)HE.1943-5584.0000098, 2009.

111. Gopakumar, R. and Takara, K.: Analysis of bathymetry and spatial changes of Vembanad Lake and terrain characteristics of Vembanad wetland using GIS, *Hydroinformatics in Hydrology, Hydrogeology and Water Resources*, IAHS Publication, No. 331, pp. 402-411, 2009.
112. Gopakumar, R., Takara, K.: Water balance and mean water residence time of the Vembanad wetland of Kerala State, India, In: *Ecohydrology of Surface and Groundwater Dependent Systems: Concepts, Methods and Recent Developments*, IAHS Publication No. 328, pp. 222-232, 2009.

2008年

113. 佐山敬洋・立川康人・寶 馨: バイアス補正カルマンフィルタによる広域分布型流出予測システムのデータ同化, *土木学会論文集B*, Vol. 64, No. 4, pp. 226-239, 2008.
114. 佐山敬洋・立川康人・寶 馨・増田亜美加・鈴木琢也: 地球温暖化が淀川流域の洪水と貯水池操作に及ぼす影響の評価, *水文・水資源学会誌*, vol. 21, no. 4, pp. 296-313, 2008.
115. 牧野育代・寶 馨: 多変量解析を用いた丹波川流域における水質形成に関する研究, *水工学論文集*, 土木学会, 52, pp. 1141-1146, 2008.
116. Giha LEE, Yasuto TACHIKAWA, Takahiro SAYAMA and Kaoru TAKARA: Internal response of catchment to plausible parameter sets under equifinality, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, 52, pp. 79-84, 2008.
117. APIP, Takahiro SAYAMA, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Lumping of a physically-based distributed model for sediment runoff prediction in a catchment scale, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, 52, pp. 43-48, 2008.

2007年

118. 牧野育代・寶 馨・立川康人: 植物プランクトンの出現状況の変遷からみたダム貯水池における水質段階の推移に関する研究, *水文・水資源学会誌*, no. 20, vol. 4, pp. 312-328, 2007.
119. 牧野育代, 寶 馨, 立川康人: 選択取水方式の導入が植物プランクトンの鉛直分布と生長環境に及ぼす影響, *水工学論文集*, 土木学会, vol. 51, pp. 1379-1384, 2007.
120. Le Minh NHAT, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Derivation of Rainfall Intensity-Duration-Frequency Relationships for Short-Duration Rainfall from Daily Data, *Journal of Hydrologic Environment*, vol. 3, no. 1, pp. 21-30, 2007.
121. 小林健一郎・Hinkelmann, R・Helmig, R.・寶 馨・玉井信行: 2相モデルおよび2相3成分モデルによる地下水帯水層メタン輸送数値実験, *土木学会論文集*, vol. 63, no. 2, pp. 120-132, 2007.
122. Sunmin KIM, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Applying a Recursive Update Algorithm to a Distributed Hydrologic Model, *Journal of Hydrologic Engineering, ASCE*, Vol. 12, No. 3, pp. 336 - 344, DOI: 10.1061/(ASCE)1084-0699(2007)12:3(336), 2007.
123. 立川康人・佐山敬洋・宝 馨・松浦秀起・山崎友也・山路昭彦・道広有理: 広域分布型物理水文モデルを用いた実時間流出予測システムの開発と淀川流域への適用, *自然災害科学*, vol. 26, no. 2, pp. 189-201, 2007.
124. Yasuto TACHIKAWA, Ryoichi TAKUBO Takahiro SAYAMA and Kaoru TAKARA: Heavy flood discharge prediction for the 2004 Fukui rainfall disaster in Japan and prediction in ungauged basins, *Proc. of International Symposium on Ecohydrology, Bali, Indonesia, Nov. 2005, IHP-VI, Technical documents in Hydrology*, no. 4, pp. 285-289, 2005.
125. Shen CHIANG, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Hydrological Model Performance Comparison through Uncertainty Recognition and Quantification, *Hydrological Processes*, Vol. 21, Issue 9, pp. 1179-1195, DOI: 10.1002/hyp.6678, 2007.

126. T. A. Kimaro, Y. Tachikawa and K. Takara: Distributed hydrologic simulations to analyze the impacts of land use changes on flood characteristics in the Yasu River basin in Japan, *Journal of natural disaster science*, vol. 27, no. 2, pp. 85-94, 2007.
127. 佐山敬洋・辰巳恵子・立川康人・寶 馨: 分布型流出モデルにおける流水の時空間起源に応じたハイドログラフラフ分離法, *水文・水資源学会誌*, Vol. 20, No. 3, pp. 214-225, 2007.
128. 佐山敬洋・立川康人・寶 馨: バイアス補正カルマンフィルタによる広域分布型流出予測システムのデータ同化, *土木学会論文集B*, Vol. 64, No. 4, 2008, pp.226-239.
129. 佐山敬洋・立川康人・寶 馨・増田亜未加・鈴木琢也: 地球温暖化が淀川流域の洪水と貯水池操作に及ぼす影響の評価, *水文・水資源学会誌*, Vol. 21, No. 4, 2008, pp.296-313.
130. 佐山敬洋・立川康人・寶 馨: 流出モデルの基準面積に関する研究, *土木学会論文集 B*, Vol. 63, No. 2, 2007, pp. 92-107.
131. C. A. Mondonedo, Y. Tachikawa, and K. Takara: Evaluation of the quantiles of the Neyman-Scott rainfall model, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, vol. 51, pp. 79-84, 2007.
132. Le Minh NHAT, Y. Tachikawa, T. Sayama and K. Takara: A simple scaling characteristics of rainfall in time and space to derive intensity duration frequency relationships, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, vol. 51, pp. 73-78, 2007.
133. Lee Giha, Y. Tachikawa., and K. Takara: Identification of model structural stability through comparison of hydrologic models, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, vol. 51, pp. 49-54, 2007.
134. Kim Sunmin, Y. Tachikawa., and K. Takara: Recursive updating of distributed state variables using observed discharges through kalman filter, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, vol. 51, pp. 67-72, 2007.
135. 小林健一郎, 寶 馨, 立川康人: 最適化手法による分布型降雨流出モデルのパラメータ推定, *水工学論文集, 土木学会*, vol. 51, pp. 409-414, 2007.

2006年

136. Jason K. Levy, James E. T. Moncur, and Kaoru Takara: Introduction: enhancing the capacity for sustainable watershed management, *Journal of American Water Resources Association*, 2006, 42(6): 1437-1439.
137. Shen, D. Y. and Takara, K.: A modelling and 3-D simulation system for water erosion on hillslopes - M3DSSWEH, *Journal of Hydraulic Research, IAHR*, Vol. 44, No. 5, pp. 674-681, 2006.
138. Shen Chiang, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara: Hydrological model evaluation and comparison through uncertainty recognition and quantification, *Prediction in Ungauged Basins: Promises and Progress, IAHS Publ. 303*, pp. 145-152, 2006.
139. Nawa Raj Pradhan, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara: Disaggregation of upslope catchment area and steepest slope for transferring geomorphometric information across scale, *Prediction in Ungauged Basins: Promises and Progress, IAHS Publ. 303*, pp. 414-421, 2006.
140. Takahiro Sayama, Yasuto Tachikawa, Kaoru Takara and Yutaka Ichikawa: Distributed rainfall-runoff analysis in a flow regulated basin having multiple multi-purpose dams, *Prediction in Ungauged Basins: Promises and Progress, IAHS Publ. 303*, pp. 371-381, 2006.
141. Shen CHIANG, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: A pseudo validation algorithm for hydrological model credibility assessment, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, vol. 50, pp. 103-108, 2006.

142. Nawa Raj PRADHAN, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Downscaling methods of flow variables for scale invariant routing model, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), vol. 50, pp. 109-114, 2006.
143. 佐山敬洋・菅野浩樹・立川康人・寶 馨:ダム群操作過程を導入した広域分布型流出予測システムによる淀川流域の治水安全度評価, 水工学論文集, vol. 50, pp. 601-606, 2006.
144. 牧野育代・寶 馨・立川康人:流入河川の水質特性と冷水対策が貯水池水質に及ぼす影響, 水工学論文集, vol. 50, pp. 1369-1374, 2006.
145. Sunmin KIM, Yasuto TACHIKAWA, Takahiro SAYAMA, and Kaoru TAKARA: Ensemble rainfall-runoff prediction with radar image extrapolation and its error structure, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), vol. 50, pp. 43-48, 2006.
146. 小林健一郎・立川康人・佐山敬洋・寶 馨:分布型降雨流出モデルによる2004年10月台風23号由良川洪水の解析, 水工学論文集, vol. 50, pp. 313-318, 2006.
147. D. Y. Shen, K. Takara, Y. Tachikawa and , Y. L. Liu : 3D simulation of soft geo-objects, International Journal of Geographical Information Science, vol. 20, no. 3, pp. 261-271, DOI: 10.1080/13658810500287149, 2006.
148. Nawa Raj Pradhan, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara : A downscaling method of topographic index distribution for matching the scales of model application and parameter identification, Hydrological Processes, 20, pp. 1385-1405, DOI: 10.1002/hyp.60698, 2006.
149. Roshan Shrestha, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara : Input data resolution analysis for distributed hydrological modeling, Journal of Hydrology, Vol 319(1-4), pp. 36-50, doi:10.1016/j.jhydrol.2005.04.025, 2006.

2005年

150. 佐山敬洋・立川康人・寶 馨・市川温 : 広域分布型流出予測システムの開発とダム群治水効果の評価, 土木学会論文集, No. 803/II-73, pp. 13-27, 2005.11.
151. 佐山敬洋・立川康人・寶 馨 : 不確実性を考慮する地上・レーダ雨量の合成法, 土木学会論文集, No. 803/II-73, pp. 1-11, 2005.11.
152. 佐山敬洋・立川康人・寶 馨 : 流出モデルの不確実性評価手法とそのモデル選択への適用, 土木学会論文集, No. 789/II-71, pp. 1-13, 2005.
153. Roshan Shrestha, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara, Multiplicative random cascade hsa method for high resolution rainfall field modeling, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), vol. 49, 253-258, 2005.
154. Nawa Raj PRADHAN, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara, Development of a transferable hydrologic modeling in topmodel framework across scale and region, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), vol. 49, pp. 217-222, 2005.
155. Shen Chiang, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara, An approach to uncertainty identification in hydrological modeling, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), vol. 49, pp. 211-216, 2005.
156. Sunmin KIM, Yasuto TACHIKAWA, and Kaoru TAKARA: Real-time prediction algorithm with a distributed hydrological model with Kalman filter, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), vol. 49, pp. 163-168, 2005.

2004年

157. Roshan Shrestha, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara : Performance analysis of different meteorological data and resolutions using MaScOD hydrological model, *Hydrological Processes*, vol. 18, pp. 3169–3187, DOI: 10.1002/hyp.5756, 2004.
158. Roshan Shrestha, Kaoru Takara, Yasuto Tachikawa and Raghu N. Jha : Water Resources Assessment in Poorly Gauged Mountainous Catchment using GIS and remote Sensing, *Hydrological Processes*, vol. 18, pp. 3061–3079, DOI: 10.1002/hyp.5479, 2004.
159. 寶 馨 : 世界の水問題の動向と研究展望, 土木学会論文集, No. 761/II-67, pp. 1–18, 2004.5.
160. 立川康人・永谷 言・寶 馨 : 飽和不飽和流れの機構を導入した流量流積関係式の開発, 水工学論文集, pp. 7–12, vol. 48, 2004.
161. Roshan Shrestha, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara, Spectral analysis of spatial rainfall field to investigate uncertainty in Hydrological modeling, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, vol. 48, pp. 121–126, 2004.
162. Nawa Raj PRADHAN, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara, A scale invariance model for spatial downscaling on topographic index in TOPMODEL, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, vol. 48, pp. 109–114, 2004.
163. Shen Chiang, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara, Rainfall-runoff simulation by using distributed instantaneous unit hydrograph derived from applying flow accumulation value of DEM, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, vol. 48, pp. 1–6, 2004.
164. NMNS Bandara Nawathna, So kazama, Masaki Sawamoto and Kaoru Takara, Method to delineate blocks in BTOPMC model for large scale watersheds, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, vol. 48, pp. 61–66, 2004.
165. 立川康人・小松良光・椎葉充晴・寶 馨 : 移流モデルによる予測降雨場の誤差構造のモデル化 と降雨場の模擬発生, 土木学会論文集, No. 754/II-66, pp. 9–18, 2004.2.

2003 年

166. Y. Tachikawa, Y. Komatsu, K. Takara and M. Shiiba : Stochastic modeling of error structure of real-time predicted rainfall and rainfall field Generation, *IAHS Publication*, no. 282, pp. 66–73, 2003.
167. R. K. Shrestha, Y. Tachikawa and K. Takara : Model behavior of distributed hydrological modeling with different forcing data resolutions, *IAHS Publication*, no. 282, pp. 169–176, 2003.
168. T. A. Kimaro, Y. Tachikawa and K. Takara: Evaluating land use change effects on floods peak using distributed rainfall runoff model in Yasu River, Japan, in *Weather Radar Information and Distributed Hydrological Modelling* (ed. Y. Tachikawa et al.), *IAHS Publication* no. 282, pp. 241–248, 2003.
169. T. Kojima and K. Takara: A grid-cell based distributed flood runoff model and its performance, in *Weather Radar Information and Distributed Hydrological Modelling* (ed. Y. Tachikawa et al.), *IAHS Publication* no. 282, pp. 234–240, 2003.
170. 立川康人・太田裕司・寶 馨: 立地均衡モデルを用いた淀川下流域における治水事業評価 に関する考察, 河川技術論文集, 第 9 卷, pp. 317–322, 2003, 6 月.
171. 立川康人・日和佐真丈・寶 馨 : ランダムカスケードモデルと降雨標高依存直線を用いた降雨空間 分布の模擬発生, 水工学論文集, 土木学会, 第 47 卷, pp. 127–132, 2003, 3 月.
172. Roshan SHRESTHA, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA : A new method to define flow direction using grid digital elevation models, *Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会)*, vol. 47, pp. 241–246, 2003.

173. SAYAMA Takahiro, TAKARA Kaoru, and TACHIKAWA Yasuto : Reliability evaluation of rainfall-sediment-runoff models, Erosion Prediction in Ungauged Basins, IAHS Publication, no 279, pp. 131 - 141, 2003.
174. 佐山 敬洋, 寶 馨 : 斜面侵食を対象とする分布型土砂流出モデル, 土木学会論文集, No. 726 / II-62, pp. 1-9, 2003.

2002年

175. 牛山素行・寶 馨・立川康人・近森秀高, 2002年8月31日～9月1日の台風15号による韓国の豪雨災害, 自然災害科学, 21(3), pp. 299-309, 2002.
176. Y. Ichikawa, T. Hori, M. Shiiba, Y. Tachikawa, K. Takara : Investigation on the scale of rainfall spatial variability to be considered in runoff simulation, Journal of Hydrosience and Hydraulin Engineering, JSCE, vol. 20, no. 2, 2002, pp. 207-216.
177. 立川康人・尾崎雄一郎・KIMARO, T. A.・寶 馨:野洲川流域における水循環の変遷について, 河川技術論文集, 第8巻, pp. 551-556, 2002, 6月.
178. 児島利治・寶 馨・立川康人:分布モデルを中心とする洪水流出解析手法の高度化に関する研究, 河川技術論文集, 第8巻, pp. 437-442, 2002, 6月.
179. 立川康人・宝 馨・田中賢治・水主崇之・市川 温・椎葉充晴:中国淮河流域における河川流量 シミュレーション, 水文・水資源学会誌, no. 2, pp. 139-151, 2002.
180. 市川温・立川康人・堀智晴・宝 馨・椎葉充晴:流出計算で考慮すべき降水空間分布スケール に関する基礎的検討, 水工学論文集, 土木学会, 第46巻, pp. 133-138, 2002, 3月.
181. Roshan, SHRESTA, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA, Effects of Forcing Data Resolution in River Discharge Simulation, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE (水工学論文集, 土木学会), vol. 46, pp. 139-144, 2002.

2001年

182. 宝 馨・土佐香織:小標本への両側有界分布の適用について, 水工学論文集, 土木学会, 第45巻, 2001, pp. 187-192.
183. 立川康人・太田裕司・宝 馨:東海豪雨時の野並地区における浸水災害と浸水シミュレーション, 河川技術論文集, 土木学会, 第7巻, 2001, pp. 53-58.
184. 立川 康人, 川上 貴裕, 市川 温, 椎葉 充晴, 宝 馨: 中国淮河流域へのマクログリッド型流出モデルの適用水工学論文集, 45, pp. 127-132, 2001.
185. 牛山素行・大井戸志朗・宝 馨:1999年広島豪雨災害資料による土砂災害危険雨量の設定とその実用性, 河川技術論文集, 土木学会, 第7巻, 2001, pp. 167-170.
186. 宝 馨・端野典平・中尾忠彦:DAD解析におけるレーダー雨量と非線形最適化手法の適用, 土木学会論文集, 第691号/II-57, 2001, pp. 1-10.
187. 寶 馨・牛山素行・立川康人他:2000年9月東海豪雨災害の実態と教訓, 水文・水資源学会誌, Vol.14, No.5, 2001, pp.411-432.
188. 田中茂信・宝 馨:洪水頻度解析におけるAMSとPDSの比較, 水工学論文集, 土木学会, 第45巻, 2001, pp. 205-210.

2000年以前

189. 立川 康人, 福満 匡高, 市川 温, 椎葉 充晴, 寶 馨:パラメータの空間分布が流出シミュレーション結果に及ぼす影響について水工学論文集, 水工学論文集, 土木学会, 第44巻, pp. 217-222, 2000.
190. 市川 温, 小椋 俊博, 立川 康人, 椎葉 充晴, 宝 馨:山腹斜面流出系における一般的な流量流積関係式の集中化, 水工学論文集, 土木学会, 第44巻, pp. 145-150, 2000.

191. 宝 馨・土佐香織:両側有界分布の水文頻度解析への応用, 水工学論文集, 土木学会, 第 43 卷, pp. 121-126, 1999.
192. 田中茂信・宝 馨:河川流量の頻度解析における適合度と安定性の評価, 水工学論文集, 土木学会, 第 43 卷, pp. 127-132, 1999.
193. 宝 馨:水文頻度解析の進歩と将来展望, 水文・水資源学会誌, 第 11 卷, 第 3 号, 1998, pp. 740-756.
194. 宝 馨:国際水文学計画(IHP)及び FRIEND プロジェクトの課題と現況---東南アジア・太平洋地域の活動を中心として---, 水文・水資源学会誌, 第 11 卷, 第 3 号, pp. 274-284, 1998.
195. 児島利治・宝 馨・岡 太郎・千歳知礼:ラスタ型空間情報の分解能が洪水流出解析結果に及ぼす影響, 水工学論文集, 土木学会, 第 42 卷, 1998, pp. 157-162.
196. 近森秀高・岡 太郎・宝 馨・大久保 豪:流出モデルの構築における GIS の応用に関する研究, GIS-理論と応用, 地理情報システム学会, Vol. 6, No. 1, , pp. 19-28, 1998.
197. 児島 利治, 宝 馨, 石黒 鉄治. リモートセンシング画像の空間分解能が植生指標と蒸発散推定量に及ぼす影響. 水文・水資源学会誌, 10(4), 349-359, 1997.
198. 近藤 昭彦, 宝 馨, 立川 康人:航空機 MSS リモートセンシングによるヒートアイランド現象の解析-気温と地表温度の同時観測による検討-, 地学雑誌, Vol. 106, No. 3, pp. 377-385, 1997.
199. 児島利治, 宝 馨: リモートセンシング画像の空間分解能と土地被覆分類精度の関係, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 16, No. 5, pp. 23-37, 1996.
200. 藤吉康志, 藤田岳人, 武田喬男, 小尻利治, 宝 馨, 池田繁樹: 複雑山岳地形が風下の降雪分布に及ぼす効果 : 濃尾平野を例として, 天気, Vol. 43, No. 6, pp. 392-408, 1996.
201. Takara, K. and T. Kojima: GIS-aided land cover classification assessment based on remote sensing images with different spatial resolutions, HydroGIS '96, Application of Geographic Information Systems in Hydrology and Water Resources Management, IAHS Publication No. 235, 1996, pp. 659-665.
202. 立川 康人, 栖原 聖二, 椎葉 充晴, 高棹 琢馬, 宝 馨: 流域地表面における衛星搭載合成開口レーダデータの特性について, 水工学論文集, 土木学会, 第 38 卷, 759-764, 1994.
203. Tachikawa, Y., M. Shiiba, T. Takasao, and K. Takara: Extraction of catchment physical characteristics by use of synthetic aperture radar for distributed hydrologic modeling, Proc. of Symposium on GEWEX in Asia--GAME, 1994, pp. 2.10-2.13.
204. Takara, K. and J.R. Stedinger: Recent Japanese contribution to frequency analysis and quantile lower bound estimator, Stochastic and Statistical Methods in Hydrology and Environmental Engineering, (ed.) K.W. Hipel, Kluwer Academic Publishers, Vol. 1, 1994, pp. 217-234.
205. 宝 馨・小尻利治:地球温暖化による流域水文応答の変化に関する数値実験, 土木学会論文集, 第 479 号/II-25, 1993, pp. 1-10.
206. Takeuchi, K., K. Takara, T. Etoh, M. Hashino, M. Nagao and N. Sogawa: Hydrological Statistics, Research and Practice of Hydraulic Engineering in Japan, Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, JSCE, No. SI-3, 1993, pp. 175-193.
207. 宝 馨:GIS(地理情報システム)とその水文・水資源への応用, 水文・水資源学会誌, Vo. 5, No. 4, pp. 53-61, 1992.
208. 宝 馨・岡 明夫:回帰分析及び kriging による確率雨量の地域総合化, 土木学会論文集, 第 456 号/II-21, 1992, pp. 1-10.

209. Takara, K., T. Kojiri, S. Ikebuchi and T. Takasao: A simulation study on catchment response change due to global warming, *Environmental Hydraulics*, J.H.W. Lee and Y.K. Cheng (Eds.), A.A. Balkema, 1991, pp. 1451-1456.
210. 宝 馨・高棹琢馬: 水文頻度解析モデルの母数推定法の比較評価, *水工学論文集*, 土木学会, 第 34 卷, 1990, pp. 7-12.
211. Takasao, T. and K. Takara: Evaluation of rainfall-runoff models from the stochastic viewpoint, *Journal of Hydrology*, Vol. 102, 1988, pp. 381-406.
212. 高棹琢馬・宝 馨・三谷裕次郎: 洪水予測精度向上のためのレーダー雨量の逐次補正について, 第 33 回水理講演会論文集, 土木学会, 1989, pp. 103-108.
213. 宝 馨・高棹琢馬: 「水文頻度解析における確率分布モデルの評価規準」への討議に対する回答, *土木学会論文集*, 第 405 号/II-11, 1989, pp. 267-272.
214. 宝 馨・高棹琢馬: 水文頻度解析における確率分布モデルの評価規準, *土木学会論文集*, 第 393 号/II-9, 1988, pp. 151-160.
215. Takara, K. and T. Takasao: A new attempt to evaluate rainfall-runoff models from the viewpoint of stochastic transformation, *Journal of Hydroscience and Hydraulic Engineering*, JSCE, Vol. 3, No. 2, 1985, pp. 61-72.
216. 宝 馨・高棹琢馬・椎葉充晴: 洪水流出の確率予測における実際的手法, 第 28 回水理講演会論文集, 土木学会, 1984, pp. 415-422.
217. Takara, K., M. Shiiba and T. Takasao: A stochastic method of real-time flood prediction in a basin consisting of several sub-basins, *Journal of Hydroscience and Hydraulic Engineering*, JSCE, Vol. 1, No. 2, 1983, pp. 93-111.

(3) 論説・国際会議論文・紀要等

1. 寶 馨, 巻頭言: 地下水と持続可能な社会, *地下水学会誌*, Vol. 62, No. 2, pp. 161-162, 2020.5.
2. 寶 馨, 定説を疑う, 巻頭言, *かりん*, 京都大学吉田南総合図書館報, 第 11 号, pp. 2-3, 2018.12.
3. 寶 馨, 超過洪水への備えと河川整備, 論説・オピニオン, *土木学会誌*, Vol. 103, No. 11, p. 58, 2018.11.
4. 寶 馨, 災害リスクと超高齢社会の防災, 論説・オピニオン, *土木学会誌*, Vol. 103, No. 4, p. 68, 2018.4.
5. 寶 馨, 防災問題における国際共同研究・人材育成と社会実装, *学術の動向*, Vol. 23, No. 3, pp. 95-97, 2018.3.
6. 寶 馨, 環境を総合的に掴む人材育成, *環境会議*, 秋号, 事業構想大学院大学出版部, pp. 144-149, 2017.9.
7. 寶 馨, 巻頭言・防災学術連携体と国際的な動向, *自然災害科学*, 36(2), pp. 141-142, 2017.8.
8. Takara, K., Disaster Prevention Research Institute (DPRI), Kyoto University. *Advancing Culture of Living with Landslides*, Vol. 1: ISDR-ICL Sendai Partnerships 2015-2025, (Eds.) Kyoji Sassa, Matjaz Mikos and Yueping Yin, SpringerOpen, pp. 179-184, 2017.5.
9. Takara, K. and K. Sassa, UNESCO-KU-ICL UNITWIN Cooperation Programme for Landslides and Water-Related Disaster Risk Management. *Advancing Culture of Living with Landslides*, Vol. 1: ISDR-ICL Sendai Partnerships 2015-2025, (Eds.) Kyoji Sassa, Matjaz Mikos and Yueping Yin, SpringerOpen, pp. 247-256, 2017.5.
10. Phan Van Tien, Kaoru Takara and Kyoji Sassa, *Study on Landslides I WSeathered Granite Areas of Hai Van Mountain, Vietnam*, Disaster Prevention Research Institute Annuals, Kyoto University, 59B, pp. 135-144, 2016.6.
11. Pham Van Tien Kyoji Sassa, Kaoru Takara and Khang Dang, *Analyzing Failure Characteristics and Potential of*

Ladslides in Hai Van Mountain, Vietnam, 10th Asian Regional Conference of IAEG, Kyoto University, Kyoto , Japan, 26-29 September, 2015.

12. 寶 馨, 求められる防災機能, 医療福祉建築, 183, pp. 4-5, 2014.4.
13. 寶 馨, 京都大学のグローバル COE プログラム「極端気象と適応社会の生存科学」の目的と取組み, 月刊下水道, 37(7), pp. 38-40, 2014.
14. 石原正仁・寶 馨: 2012 年 8 月 14 日に宇治市周辺に大雨災害をもたらしたメソスケール対流システムの組織化について. 京都大学防災研究所年報, 56A, pp. 79-86, 2013.
15. Kaoru Takara, JHHE - its successful finale, Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, Vol. 30, No. 2, pp. 91-92, 2012.
16. 寶 馨, 水災害リスクの管理についての国際的議論の展開, 特集「第6回世界水フォーラムの成果と課題」, 環境技術, Vol. 41, No. 10, pp. 613-627, 2012.
17. 寶 馨, 巻頭言・持続可能な水循環と水文調査, 地質と調査, Vol. 131, p. 1, 2012.3.
18. 小林 健一郎、奥 勇一郎、寶 馨、石川 裕彦、竹見 哲也、中北 英一, 物理ダウンスケール法による極端台風を用いた淀川流域の洪水評価, 京都大学防災研究所年報, 55B, pp. 9-14, 2012.
19. 寶 馨, 淀川-その歴史と近現代の治水 100 年-, 土木学会誌, 96(1), pp. 59-62, 2011.
20. 寶 馨, 巻頭言・可能最大事象, 自然災害科学, 30(3), pp. 301-302, 2011.
21. 寶 馨, 豪雨(第 1 章 災害概論 2.自然災害 2.2 気象災害 の第 2 項目 として), 災害対策全書(第 1 巻 災害概論), ぎょうせい, 1, pp. 20-23, 2011.
22. Ostric M, Ljusic K, Krkac M, Sassa K, He B, Takara K, Yamashiki K., Portable Ring Shear Apparatus and its Application on Croatian Landslides. Annuals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto University, No. 55B. pp. 90-102, 2011.
23. 寶 馨, 巨大水災害と防災・減災の方策, 高圧ガス, 47(9), pp. 20-23, 2010.
24. Kobayashi, K. and Takara, K.: An integrated flood risk assessment framework for the community-based flood disaster management in Japan, Final Conference of COST C22, UNESCO, Paris, France, 26-27 November 2009, CD-ROM, 2009.
25. Mishra, B.K. and Takara, K.: Implementation of folk-song program in flood disaster awareness raising, Proceedings of the International Conference on Hydrology and Disaster Management, Wuhan, China, IHP-VII Technical Document in Hydrology, UNESCO Office Jakarta, pp. 101-106, 2009.
26. Luo P., Yousuke YAMASHIKI, Kaoru TAKARA, Daniel NOVER, and Bin HE, Assessment of Japanese and Chinese Flood Control Policies, Kyoto University Disaster Prevention Research Institute Annuals, No. 53B, pp. 61-70, 2010.
27. Apip, Takara K., Yamashina S., Ibrahim A.B.: Study on early warning systems for shallow landslide in the upper Citarum River catchment, Indonesia. In: Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, Japan (52B), pp. 9-17, 2009.
28. 寶 馨:巻頭言:国際的な活動とは, 水文・水資源学会誌, vol. 21, no. 2, pp. 97-99, 2008.
29. 寶 馨:地球温暖化と社会資本整備, 総研レポート, (財)建設物価調査会 総合研究所, 2, 1-8, 2008.
30. 寶 馨:地球環境変化に対する「学」の役割, 水循環:貯留と浸透, 70, pp. 6-9, 2008.
31. 寶 馨:はじめに-特集号の企画にあたって, 水循環:貯留と浸透, 70, pp. 4-5, 2008.
32. 寶 馨:1-38 記録破りの大雨とその確率, 建築大百科事典, 朝倉書店, ISBN 978-4-254-26633-7, 2008.
33. 永谷 言・高田康史・寶 馨・佐山敬洋:分布型降雨土砂流出モデルを用いた貯水池土砂流入量予測に関する研究, 第 4 回土砂災害に関するシンポジウム論文集, 2008.

34. MISHRA Binaya Kumar, TAKARA Kaoru and TACHIKAWA Yasuto: NRCS Curve Number based Hydrologic Regionalization of Nepalese River Basins for Flood Frequency Analysis, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, 51B, pp. 93-102, 2008.
35. KIM Sunmin, TACHIKAWA Yasuto, TAKARA Kaoru and NAKAKITA Eiichi: Hydrologic Prediction under Global Warming at Tone and Yodo River Basins using the Output of Global 20-km Mesh GCM, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, 51B, pp. 11-20, 2008.
36. APIP, TACHIKAWA Yasuto, SAYAMA Takahiro and TAKARA Kaoru: Lumping a Physically-based Distributed Sediment Runoff Model with Embedding River Channel Sediment Transport Mechanism, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, 51B, pp. 103-118, 2008.
37. 寶 馨・甲山 治・小林健一郎・佐原将史・倉増銀一・竹内 出・角谷 保: 分布型モデルによる融雪流出解析について—地球温暖化影響評価を目指して—, *京都大学防災研究所年報*, pp. 1-10, 2008.
38. WU Tingyeh, TAKARA Kaoru: Assessment Framework for Vulnerability and Exposure Based on Landslide Hazard Mapping, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, 51B, pp. 75-82, 2008.
39. 甲山 治・大石 哲・砂田憲吾・寶 馨: 中央アジア・キジルクム砂漠における地表面フラックス観測, *京都大学防災研究所年報*, 51B, pp. 21-28, 2008.
40. LEE Giha, TACHIKAWA Yasuto and TAKARA Kaoru: Assessment of Prediction Uncertainty under Scale-dependant Condition of Rainfall-Runoff Modeling, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, 51B, pp.29-50, 2008.
41. MONDONEDO Carlo, TACHIKAWA Yasuto and TAKARA Kaoru: Analysis of Peak Streamflow Distributions Based on Neyman-Scott Synthetic Rainfall, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, 51B, pp.51-61, 2008.
42. Le MINH NHAT, TACHIKAWA Yasuto, SAYAMA Takahiro and TAKARA Kaoru: Estimation of Sub-hourly and Hourly IDF Curves Using Scaling Properties of Rainfall at Gauged Site in Asian Pacific Region, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, 51B, pp.63-73, 2008.
43. ZHENG Nanshan, TAKARA Kaoru, TACHIKAWA Yasuto and KOZAN Osamu: Analysis of Vulnerability to Flood Hazard Based on Land Use and Population Distribution in the Huaihe River Basin, China, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, 51B, pp. 83-91, 2008.
44. 宝 馨: 気象学と地盤工学, 土と基礎, vol. 55, no. 2, NAID 110006164931, pp. 12-14, 2007.2.
45. Kenichiro Kobayashi and Kaoru Takara: Application of a Levenberg-Marquardt optimization algorithm to the parameter estimation of a distributed rainfall-runoff model, *Proceedings of the 6th international Conference on Calibration and Reliability in Groundwater Modelling, ModelCARE, Denmark*, 586-591, 2007.
46. 中川 一・里深好文・大石 哲・武藤裕則・佐山敬洋・寶 馨・シャルマ ラジハリ: ブランタス川の支川レスティ川流域における降雨・土砂流出に関する研究, *京都大学防災研究所年報*, 50B, 2007.
47. Tomotsuka Takayama, Kaoru Takara, Keiichi Toda, Masaharu Fujita, Hajime Mase, Yasuto Tachikawa, Nozomu Yoneyama, Daizo Tsutsumi, Tomohiro Yasuda, Takahiro Sayama: Research Works for Risk Assessment Technology Related to Flood in Urban Area, *京都大学防災研究所年報*, 50c, 2007.
48. 佐山敬洋・立川康人・平田智行・寶 馨: バイアス補正を考慮するカルマンフィルタを導入した実時間流出予測, *京都大学防災研究所年報*, 50B, 2007.
49. Sunmin KIM, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Recent flood disasters and progress of disaster management system in Korea, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 50B, 2007.
50. Carlo Arturo MONDONEDO, Yasuto TACHIKAWA, Kaoru TAKARA: NSM modifications for improved

- generation of rainfall maxima, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 50B, 2007.
51. Giha LEE, Yasuto TACHIKAWA, and Kaoru TAKARA: Quantification of parameter uncertainty in distributed rainfall-runoff modeling, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 50B, 2007.
 52. Le MINH NHAT, Yasuto TACHIKAWA, Takahiro SAYAMA and Kaoru TAKARA, Regional rainfall intensity-duration-frequency relationships for ungauged catchments based on scaling properties, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 50B, 2007.
 53. P.B. Hunukumbura, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Extending a distributed hydrological model to use globally available topographic data, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 50B, 2007.
 54. Binaya Kumar MISHRA, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Suitability of sample size for identifying distribution function in regional frequency analysis, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 50B, 2007.
 55. 古市佐絵子・立川康人・宝 馨: 治水事業と地域計画との連携における課題抽出とその解決への一考察, 京都大学防災研究所年報, 50B, 2007.
 56. Nanshan ZHENG, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Simplified flood inundation model integrating with rainfall-runoff processes, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 50B, 2007.
 57. APIP, Takahiro SAYAMA, Yasuto TACHIKAWA, and Kaoru TAKARA: The spatio-temporal predictions of rainfall-sediment-runoff based on lumping of a physically-based distributed model, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 50B, 2007.
 58. Sunmin KIM, Yasuto Tachikawa, Kaoru Takara: HOHAI2005, IAHS publication.
 59. Dayong Shen, Kaoru Takara and Yasuto Tachikawa: HOHAI2005, IAHS publication.
 60. 宝 馨: 大標本時代の水文頻度解析手法-リターンピリオドを超えるようなサイズの標本に対する極値データ解析-, 京都大学防災研究所年報, 49B, pp. 7-12, 2006.
 61. 立川康人・佐山 敬洋・可児良昭・宝 馨・松浦秀起・山崎友也: 広域分布型流出予測モデルを用いた実時間流出予測システムの開発と淀川流域への適用, 京都大学防災研究所年報, 49B, pp. 13-26, 2006.
 62. 佐山敬洋・立川康人・寶馨: 流出モデルの基準面積に関する研究, 京都大学防災研究所年報, 49B, pp. 27-43, 2006.
 63. D. Shen, K. Takara and Z. Jin: Hillslope erosion modeling, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 49B, pp.45-53, 2006
 64. Kenichiro KOBAYASHI, Kaoru TAKARA, Yasuto TACHIKAWA and Takahiro SAYAMA: Study on a methodology for making a community-based flood hazard map -Focusing on the Analysis of the Yuragwa -River Flood by Typhoon No. 23 in October 2004 using a Distributed Rainfall-Runoff Model-, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 49C, 2006.
 65. 牧野育代・寶 馨・立川康人: 貯水池におけるプランクトンの出現状況の変遷からみた富栄養化の段階推移に関する研究, 京都大学防災研究所年報, 49B, pp. 105-117, 2006.
 66. Sunmin KIM, Yasuto TACHIKAWA, Kaoru TAKARA: Flood Forecasting System Using Weather Radar and a Distributed Hydrologic Model, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 49B, pp. 55-65, 2006.
 67. Le minh NHAT, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Establishment of Intensity-Duration-Frequency curves for precipitation in the monsoon area of Vietnam, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 49B, pp. 93-103, 2006.
 68. Giha LEE, Yasuto TACHIKAWA, and Kaoru TAKARA: Analysis of Hydrologic Model Parameter Characteristics Using Automatic Global Optimization Method, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 49B, pp. 67-

- 81, 2006.
69. Carlo Arturo Mondonedo, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Quantiles of Neyman-Scott Rectangular Pulse Rainfall Model for Hydrologic Design, *Annals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.*, No. 49B, pp. 83-91, 2006.
70. 立川 康人・佐山 敬洋・宝 馨: 大洪水の予測シミュレーションー洪水予測の高度化, 治水安全度評価および温暖化時の流出予測実験ー, 第 5 回水文・水資源セミナー, 気候変動と水災害・生態系, 2006 年 5 月 25 日, 東京大学農学部弥生講堂, pp. 11-28, 2006.
71. 立川 康人・佐山敬洋・小林健一郎・宝 馨: 安全・安心で風格ある都市社会の創生と持続性評価に関する基礎研究ー洪水予測の高度化, 治水安全度評価および温暖化時の流出シミュレーションー, 2006.
72. Dayong Shen, Kaoru Takara, Yasuto Tachikawa, Yuling Liu: Design and Development of Multi-agent based Application system, accepted.
73. Dayong Shen, Kaoru Takara, Zhengping Jin. Hillslope Erosion Modeling. *Annals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ.*, 2006, No. 49 B, 45-53.
74. 立川康人・田窪遼一・佐山敬洋・寶 馨: 平成 16 年福井豪雨における洪水流量の推定と中小河川流域の治水計画に関する考察, 京都大学防災研究所年報, 48B, pp. 1-13, 2005.
75. NMNS Bandara Nawarathna, Y. Tachikawa and K. Takara: Delineating hydrological response units in hydrological modelling, *Annals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ.*, no. 48C, pp. 173-180, 2005.
76. Dayong Shen, Kaoru Takara and Yasuto Tachikawa: 3D simulation of overland flow, *Annals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ.*, no. 48B, pp. 25-31, 2005.
77. Shen CHIANG, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Uncertainty Recognition and Quantification of Hydrologic Prediction, *Annals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ.*, no. 48B, pp. 33-42, 2005.
78. Nawa Raj PRADHAN, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Development of a Scale Invariant Muskingum-Cunge Routing Method, *Annals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ.*, no. 48B, pp. 59-74, 2005.
79. 佐山敬洋・菅野浩樹・立川康人・寶 馨: 広域分布型流出予測システムを用いた淀川流域の治水安全度評価, 京都大学防災研究所年報, 48B, pp. 15-24, 2005.
80. Roshan K. SHRESTHA, Yasuto TACHIKAWA, Kaoru TAKARA: Use of Disaggregated Rainfall Data for Distributed Hydrological Modeling in Yodo River Basin, *Annals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ.*, no. 48B, pp. 43-51, 2005.
81. Sunmin KIM, Yasuto TACHIKAWA, and Kaoru TAKARA: Rainfall-Runoff Prediction Considering Error Structure of Predicted Rainfall, *Annals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ.*, no. 48B, pp. 53-58, 2005.
82. 児島利治・立川康人・寶 馨: 高分解能衛星画像を用いた斜面崩壊地の同定における 季節変化の影響, 第 4 回水文過程のリモートセンシングとその応用に関するワークショップ論文集, pp. 35-44, 2004.
83. 寶 馨・立川康人・児島利治・可児良昭・池淵周一: 降雨流出に及ぼす山腹斜面の影響ーいわゆる「緑のダム」の洪水調節効果の流域水文学的検討ー, 京都大学防災研究所年報, 47B, pp. 171-182, 2004.
84. 立川康人・日和佐真丈・寶 馨: 時空間分布を考慮した計画降雨の生成に関する研究, 京都大学防災研究所年報, 47B, pp. 183-202, 2004.

85. 児島利治・寶 馨・増田亜未加 : 高分解能補完画像を用いた洪水被災地同定手法の開発, 京都大学防災研究所年報, 47B, pp. 203-210, 2004.
86. 佐山敬洋・立川康人・寶 馨 : ダム群流況制御を考慮した広域分布型流出予測システムの開発, 京都大学防災研究所年報, 47B, pp. 211-226, 2004.
87. NMNS Bandara, Nawarathna, Yasuto Tachikawa and Kaoru Takara: Development of composite algorithms to create rainfall mosaics using 3-D weather radar during a typhoon event, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., no. 47C, pp. 281-287, 2004.
88. Shen CHIANG, Yasuto TACHIKAWA, Toshiharu KOJIMA and Kaoru TAKARA: A Physically-based Hydrologic Response Function Derived from DEMs and Remote Sensing Image, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., no. 47B, pp. 227-234, 2004.
89. Roshan K. SHRESTHA, Yasuto TACHIKAWA, Kaoru TAKARA: Downscaling Spatial Rainfall Field from Global Scale to Local Scale Using Improved Multiplicative Random Cascade Method, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., no. 47B, pp. 235-251, 2004.
90. Nawa Raj PRADHAN, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Development of Scale Invariant Physically Based Hydrological Model: Scale Invariant TOPMODEL, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., no. 47B, pp. 252-271, 2004.
91. Sunmin KIM, Yasuto TACHIKAWA, and Kaoru TAKARA: Real-time Updating of State Variables in a Distributed Hydrological Model, Annuals of Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ., no. 47B, pp. 273-282, 2004.
92. SAYAMA Takahiro, TAKARA Kaoru, and TACHIKAWA Yasuto : Application of Remotely Sensed Data to Sediment Load Estimation by a Distributed Rainfall-Sediment-Runoff Catchment Model, Monitoring, Prediction and Mitigation of Disasters by Satellite Remote Sensing (MPMD2004), pp. 39-45, 2004.
93. Toshiharu Kojima and Kaoru Takara : Identification of Flood Disaster Area Using Simulated High Resolution Image, Monitoring, Prediction and Mitigation of Disasters by Satellite Remote Sensing (MPMD2004), pp. 47-52, 2004.
94. Kimaro T. Anderson, Yasuto Tachikawa, and Kaoru Takara : Application of Remote Sensing for Describing Spatial-temporal Changes in Flood Characteristics, Monitoring, Prediction and Mitigation of Disasters by Satellite Remote Sensing (MPMD2004), pp. 61-69, 2004.
95. Roshan Shrestha, Toshiharu Kojima, Yasuto Tachikawa, and Kaoru Takara : Analysis of Temporal Vegetation Activity Using MODIS/TERRA Vegetation Indexes in Asian Mountainous Region, Monitoring, Prediction and Mitigation of Disasters by Satellite Remote Sensing (MPMD2004), pp. 85-92, 2004.
96. Kaoru Takara : Current Situation and Problems in Application of Remote Sensing to Disaster Monitoring, Monitoring, Prediction and Mitigation of Disasters by Satellite Remote Sensing (MPMD), pp. 185-199, 2004.
97. Takara, K., Tachikawa, Y. and Kojima, K. (eds.): Proc. of Monitoring, Prediction and Mitigation of Disasters by Satellite Remote Sensing (MPMD2004), 2004.
98. 西岡昌秋・寶 馨: Mann-Kendall 検定による水文時系列の傾向変動, 京都大学防災研究所年報, 46B, pp. 181-192, 2003.
99. 寶 馨: 2002 年台風 RUSA による韓国の豪雨洪水土砂災害, 京都大学防災研究所年報, 46-B, pp. 73-80, 2003.
100. 立川康人・永谷 言・寶 馨: 分布型洪水流出モデルにおける空間分布入力情報の有効性 の評価, 京都大学防災研究所年報, 46B, pp. 233-248, 2003.

101. 児島利治・入谷貴也・立川康人・寶 馨: 衛星画像を用いた 2002 年韓国洪水災害における 被災地の同定, 京都大学防災研究所年報, 46B, pp. 203-211, 2003.
102. Kimaro, T. A., Tachikawa, Y., and Takara, K.: Hydrological Effects of land use change in the Yasu River basin, Annuals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., 46B, pp. 193-201, 2003.
103. 寶 馨: 水理公式集例題プログラム集, 第 1 編例題 1-1, 2, 土木学会, 丸善(株), 2002 年 3 月.
104. 立川康人・小松良光・宝 馨: 移流モデルによる予測降雨場の誤差構造のモデル化と 降雨場の発生, 京都大学防災研究所年報, 45-B2, pp. 101-111, 2002.
105. Tumaini KIMARO, Yasuto TACHIKAWA and Kaoru TAKARA: Groundwater Modelling Coupled with SVAT Model and its Application to the Yasu River Basin, Annuals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., 45(B2), pp. 163-172, 2002.
106. 西岡昌秋・寶 馨: 季節性を持つ水文時系列に基づく PDS 法と AMS 法の比較, 京都大学防災研究所年報, 45-B2, pp. 149-162, 2002.
107. Kaoru TAKARA, Takahiro SAYAMA, Daichi NAKAYAMA, and Yasuto TACHIKAWA: Development of rainfall-sediment-runoff model in the upper Brantas River, Indonesia, Proc. of Third Workshop on Remote Sensing of Hydrological Processes and Applications, pp. 121-130, 2002.
108. Tachikawa, Y., K. Tanaka, K. Takara, Y. Ichikawa and M. Shiiba: Simulation of River Discharge in the Huaihe River Basin in China, Proc. of 5th International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, vol. 3, pp. 734-737, Oct., 2001, Nagoya.
109. Tachikawa, Y. and K. Takara: Recent advancement of flood runoff modeling and runoff prediction, Proc. of 2001 Symp. on Assessment, Prediction and Prevention of Geohazard, Co-organized by Group for Natural Hazard Prevention Research and the Korean Society of Engineering Geology, pp. 142-155, Aug., 2001, Taejon, Korea.
110. Takara, K.: Hydrologic frequency analysis and flood control in Japan, Proc. of 2001 Symposium on Assessment, Prediction and Prevention of Geohazard, Co-organized by Group for natural Hazard Prevention Research and the Korean Society of Engineering Geology, pp. 89-113, Aug., 2001, Taejon, Korea.
111. Tachikawa, Y., R. Shrestha, K. Takara, Y. Ichikawa and M. Shiiba: Discharge Simulation in the Huaihe River Basin using HUBEX EEWB Data Set and GAME Reanalysis Data Set, Proc. of the Third GAME-HUBEX Workshop on Meso-scale Systems in Meiyu/Baiu Front and its Hydrological Cycle, Kunming, China, 2001.
112. TAKARA Kaoru, NAKAYAMA Daichi, TACHIKAWA Yasuto, SAYAMA Takahiro, NAKAGAWA Hajime, SATOFUKA Yoshifumi, EGASHIRA Shinji and FUJITA Masaharu: A rainfall-sediment-runoff model in the upper Brantas River, East, Java, Indonesia, Annual, DPRI, Kyoto University, No. 44B-2, pp. 247-257, 2001.
113. Takara, K. and Nakayama, D.: HEAP: hydrological extreme-value database for Asian Pacific FRIEND, Proc. of Fresh Perspectives on Hydrology and Water Resources in Southeast Asia and the Pacific, Christchurch, New Zealand, 21-24 November 2000, IHP-V Technical Documents in Hydrology No. 7, UNESCO Jakarta Office, 2000, pp. 255-261.
114. Takara, K., Hashino, T. and Nakao, T.: PMF estimation based on a distributed hydrological model and DAD analysis using radar raingage data, Proc. of 4th International Conference Hydroinformatics 2000, Iowa, USA, July 2000, CD-ROM, 8 pp.
115. Tanaka, S. and Takara, K.: AMS or PDS? --- Some experiences in frequency analysis of floods in Japan, Proc. of 4th International Conference Hydroinformatics 2000, Iowa, USA, July 2000, CD-ROM, 8 pp.

116. Tachikawa, Y., Ichikawa, Y., Takara, K. and Shiiba, M.: Development of a macro scale distributed hydrological model using an object-oriented hydrological modeling system, Proc. of 4th International Conference Hydroinformatics 2000, Iowa, USA, July 2000, CD-ROM, 8 pp.
117. Ichikawa, Y., Tachikawa, Y., Takara, K. and Shiiba, M.: Object-oriented hydrological modeling system, Proc. of 4th International Conference Hydroinformatics 2000, Iowa, USA, July 2000, CD-ROM, 8 pp.
118. Takara, K. and K. Tosa: Storm and flood frequency analysis using PMP/PMF estimates, Proc. of the International Symposium on Floods and Droughts, Nanjing, China, 18-21 October 1999, IHP-V, Technical Documents in Hydrology, No. 4, UNESCO Jakarta Office, Hohai University Press, 1999, pp. 7-17.
119. Tachikawa, Y., Y. Ichikawa, K. Takara, K. Sakai, T. Kawakami and S. Shiiba: Application of Macro-scale distributed hydrological model to the Chao Phraya River basin in Thailand and the Haihe River basin in China, Proc. of the International Symposium on Floods and Droughts, Nanjing, China, 18-21 October 1999, IHP-V, Technical Documents in Hydrology, No. 4, UNESCO Jakarta Office, Hohai University Press, 1999, pp. 421-430.
120. Takara, K., K. Notsumata and R. Uesaka: A distributed model for flood runoff and sediment yield based on remote sensing and GIS, Proc. of Symposium on Japan-Indonesia IDNDR Project---Volcanology, Techtonics, Flood and Sediment Hazards, Bandung, September 1998, pp. 373-384.
121. Takara, K. and S. Ikebuchi: Frequency analysis of floods and droughts in the framework of Asian Pacific FRIEND, Proc. of the First Asian Pacific FRIEND Workshop, Kuala Lumpur, Malaysia, 20-23 March 1998.
122. 宝 馨:現代水文統計論---水文頻度解析のモデル, 手法とその評価---, 1998 年度(第 34 回)水工学に関する夏期研修会講義集, A コース, 土木学会水理委員会・海岸工学委員会, 1998 年 7 月, pp. A-8-1~A-8-20.
123. 宝 馨・池淵周一: 濁水持続曲線から見た平成 6 年濁水, 第 5 回水資源に関するシンポジウム論文集, pp. 467-472, 1997.
124. Takara, K., M. Shiiba and Y. Tachikawa: Construction of hydrological information and database management systems and sharing them through the communication network, Proc. of the Sixth Annual Meeting of Foundation of Rivers and Basin Integrated Communications, pp. 19-28, 1997 (in Japanese with English abstract).
125. Tachikawa, Y., M. Shiiba and K. Takara: Analysis of time and space scale relationship on hydrological response using data base for the Yodo River, LOC Proceedings of Poster Presentations, FRIEND '97, Postjna, Slovenia, Acta hydrotechnica, University of Ljubljana, 15/19, pp. 85-89, 1997.
126. Kojima, T., K. Takara, T. Ishiguro and T. Oka: Effect of spatial resolution of remote sensing image on NDVI and monthly evapotranspiration estimation, 京都大学防災研究所年報, No. 40 B-2, pp. 111-122, 1997 (in Japanese with English abstract and captions).
127. Chikamori, H., T. Oka, K. Takara and G. Okubo: Fundamental study on application of geographic information system to construction of rainfall-runoff model of urbanized area, 京都大学防災研究所年報, No. 40 B-2, pp. 137-144, 1997 (in Japanese with English abstract and captions).
128. Takara, K., R. Uesaka and S. Egashira: Analysis of land surface conditions in the Brantas River basin ---For prediction of rainfall and sedimentation runoff---, 京都大学防災研究所年報, No. 40 S.I., pp. 47-52, 1997 (in Japanese with English abstract and captions).
129. Egashira, S., Y. Kawata, K. Sawai, K. Takara, H. Tanakamaru, T. Yamashita, H. Yoshioka, M. Fujita, Dyah Rahayu Pangesti, Isunugroho, Syamsudin A.R.: Research on disasters due to floods

- and geomorphological change and their mitigation, 京都大学防災研究所年報, No. 40 S.I., pp. 35-45, 1997 (in Japanese with English abstract and captions).
130. Takara, K., T. Kojima and T. Ishiguro: Effect of spatial resolution on NDVI-based evapotranspiration, The Second ADEOS Symposium/Workshop, organized by NASDA, EA and MITI, at PACIFICO YOKOHAMA Conference Center, Yokohama, Japan, March 10-14, 1997, pp. 667-672.
 131. Takara, K. and Joesron Loebis: Frequency analysis introducing probable maximum hydrologic events --- Preliminary studies in Japan and in Indonesia---, Proc. of International Symposium on Comparative Research on Hydrology and Water Resources in Southeast Asia and the Pacific, Yogyakarta, Indonesia, November 18-22, 1996, Indonesian National Committee for International Hydrological Programme, pp. 67-76.
 132. Takara, K., T. Takasao and K. Tomosugi: Possibility and necessity of paradigm shift in hydrologic frequency analysis, Proceedings of International Conference on Water Resources and Environment Research: Towards the 21st Century, Kyoto, Japan, October 29-31, Vol. 1, 1996, pp. 435-442.
 133. 宝 馨: 地球温暖化がわが国河川流域の水文応答に及ぼす影響, 地球環境シンポジウム講演集, 土木学会, pp. 17-22, 1995.
 134. Takara, K.: Accuracy assessment of catchment surface classification based on remotely sensed imageries with various spatial resolutions, The First ADEOS Symposium/Workshop, Kyoto International Conference Hall, Kyoto, Japan, Dec. 6-9, 1994, Organized by National Space Development Agency (NASDA), Environmental Agency (EA), and Ministry of International Trade and Industry (MITI), Vol. 2, 1994, pp. 513-516.
 135. Tachikawa, Y. and K. Takara: Extraction of aerodynamic roughness parameter by use of synthetic aperture radar data, The First ADEOS Symposium/Workshop, Kyoto International Conference Hall, Kyoto, Japan, Dec. 6-9, 1994, Organized by National Space Development Agency (NASDA), Environmental Agency (EA), and Ministry of International Trade and Industry (MITI), Vol. 2, 1994, pp. 521-524.
 136. Kojiri, T. and K. Takara: Estimation of impact on water resources system by global climate change, Proc. of the Workshop on the Effects of Global Climate Change on Hydrology and Water Resources at the Catchment Scale, Tsukuba, Japan, 1992, pp. 309-318.
 137. Takara, K. and T. Takasao: Evaluation of hydrologic frequency analysis models based on quantile variability obtained by resampling methods, Proc. of the Fifth International Conference on Urban Storm Drainage, Suita, Osaka, Japan, Vol. 2, 1990, pp. 587-592.
 138. Takasao, T., M. Shiiba and K. Takara: Stochastic state-space techniques for flood runoff forecasting, Proc. of Pacific International Seminar on Water Resources Systems, Tomamu, Hokkaido, Japan, 1989, pp. 117-132.
 139. Takasao, T. and K. Takara: Optimization of operation rules for water supply reservoirs and coping with droughts, Proc. of Sixth Congress of Asian and Pacific Regional Division, IAHR, Kyoto, Japan, 1988, Vol. I, 1988, pp. 413-420.
 140. Takara, K. and T. Takasao: Evaluation criteria for probability distribution models in hydrologic frequency analysis, 5th IAHR International Symposium on Stochastic Hydraulics, Univ. of Birmingham, U.K., 1988, Paper A5, 10 pp.

6. 指導した博士学位論文(50人;2019年9月現在)

すべて京都大学博士(工学)

	授与者	年月	学位論文題目	備考
1	Kimaro, Tumaini Anderson	H15.9	Physically Based Distribute Modeling for Hydrological Impct Assessment of Catchment Environmental Change (流域環境変化による水文学的影響評価のための分布型物理モデルに関する研究)	国費留学生 タンザニア
2	西岡 昌秋	H17.1	水文気象の不確定性と非定常性を考慮した洪水防御計画に関する研究	論博
3	牛山 素行	H17.3	豪雨防災情報システムに関する研究	論博
4	Lariyah Md. Sidek	H17.3	Bio-Ecological Drainage Systems (BIOECODS) for Effective Stormwater Control in the Tropics (熱帯における効果的な雨水制御のための生物生態学的排水システムに関する研究)	マレーシア、 JSPS 論博プログラム
5	Roshan Kumar Shrestha	H17.5	Multiscale Transformation of Space-Time Rainfall Structure and Its Effect on Distributed Hydrological Prediction (時空間降水構造の多次元スケール変換とその分布型水文予測への影響に関する研究)	国費留学生 ネパール
6	Nawa Raj Pradhan	H17.9	Development of a Topographic Disaggregation Method for Transferring Hydrological Models across Scales and Regions (スケールおよび地域を越えた水文モデル移転のための地形分解手法の開発)	国費留学生 ネパール
7	江申	H17.9	Hydrological Model Comparison and Refinement through Uncertainty Recognition and Quantification (水文予測の不確かさの認識と定量化による水文モデルの比較と改良)	台湾
8	Kim Sunmin (金善玟)	H18.9	Stochastic Real-Time Flood Forecasting Using Weather Rader and a Distributed Hydrologic Model (気象レーダーと分布型流出モデルを用いた確率的実時間洪水予測)	国費留学生 韓国
9	佐山敬洋	H19.1	降雨流出系の分布型モデリングと予測の不確実性評価に関する研究	論博
10	牧野 育代	H20.3	水道水源ダム貯水池の水質悪化に及ぼす特性要因の解析	
11	Lee Giha (李奇夏)	H20.9	Assessment of Prediction Uncertainty due to Various Sources Involved in Rainfall-Runoff Modeling (降雨流出モデリングにおける様々な要因による予測の不確かさの評価)	国費留学生 韓国
12	Carlo Arturo S.J. Mondonedo	H20.9	Enhanced Extreme Rainfall generation in Temporal Point Process Modeling (時間的ポイントプロセスモデルにおける極値降水量発生の高高度化)	国費留学生 フィリピン
13	Le Min Nhat	H20.9	A Study of the Scale Invariance of Rainfall in Time and Space to Derive Intensity Duration Frequency Relationships (極値降水量のスケール特性を用いた降雨 IDF 関係式の構築)	国費留学生 ベトナム
14	Binaya Kumar Mishra	H21.9	Enhanced Regional Frequency Analysis for Design Flood Estimation by Incorporating NRCS-Rnoff Curve Number and Synthetic Data (NRCS 流出曲線指数と模擬流量データを導入した地域洪水頻度解析に関する研究)	国費留学生 ネパール
15	鄭 南山 Zheng Nanshan	H21.9	Quantitative Assessment of Vulnerability to Large-Scale Flood Hazards with Remote Sensing and GIS (リモートセンシングとGISを用いた大流域の洪水災害脆弱性評価に関する研究)	国費留学生 中国
16	田中茂信	H22.1	毎年・非毎年時系列資料を用いた水文極値の頻度解析に関する研究	論博
17	Gopakumar R. Pillai	H22.3	Decesion Support for Water Management in the Vembanad Wetland System (ヴェンバナド湿地系の水管理のための意思決定支援手法に関する研究)	インド、JSPS 論博プログラム
18	吳 亭燁 Wu Tingyeh	H22.3	Vulnerability Assessment of Land Use Regulation by Multi-Culteria Decision Analysis for a Sediment Hazard Prone Catchment (多基準決定手法による土砂災害流域の最適土地利用政策と脆弱性評価)	台湾
19	小林健一郎	H22.3	極端気象による洪水災害の統合的シミュレーションとリスク分析	論博
20	APIP	H23.3	Integrated Geo-Hydrological Modeling and Prediction for Water and Sediment Related Disasters Reduction (水土砂災害流域のための統合地質学水文学モデリングと予測)	国費留学生 インドネシア

21	Mandira Singh Shresrha	H23.3	Bias-Adjustment of Satellite-Based Rainfall Estimates over the Central Himalayas of Nepal for Flood Prediction (洪水予測のためのネパール中央ヒマラヤにおける衛星降雨推定値のバイアス補正)	ネパール、JSPS 論博プログラム
22	Roberto Valmir Da Silva	H23.9	Development of a Multi-Velocity TOPMODEL Approach and Its Application to the Amazon Basin (分布型 TOPMODEL 流出解析法の開発とアマゾン川流域への応用)	国費留学生 ブラジル
23	大泉 伝	H24.3	ヒマラヤ Imja 氷河湖における気象水文観測と三次元水温構造解析に関する研究	
24	Mohd Remy Rozainy bin Mohd Arif Zainol	H24.3	A Study on Particle Segregation Processes in Debris Flow by an Euler-Lagrangian Coupled Hydraulic Model (オイラー・ラグランジュ結合型水理モデルを用いた土石流の粒子分離過程に関する研究)	国費留学生 マレーシア
25	羅 平平 Luo pingping	H24.3	Assessment of Water-Related Problems Considering Land Use Change and Climate Condition (土地利用と気候条件を考慮した水問題の評価に関する研究)	中国
26	村瀬勝彦	H24.3	A Study on the Development of Robust Water Resources Policy in Japan (日本における確固たる水資源政策構築に関する研究)	論博
27	石原幸司	H24.3	地域頻度解析の有効性評価と地球温暖化に伴う将来変化予測への応用に関する研究	論博
28	辰己賢一	H24.5	作物収量算定モデルの高精度化と気候変動が農業生産に与える影響の定量的分析に関する研究	論博
29	Pedro Luiz Borges Chaffe	H24.9	Snow Cover and Snowmelt Analysis in Japanese Catchments: Mapping and Model Development (日本の河川流域における積雪と融雪に関するマッピングとモデル開発)	国費留学生 ブラジル GCOE-ARS
30	Netrananda Sahu	H24.9	Impacts of Climate Variations on Seasonal Streamflows and Probabilistic Forecasts (季節河川流量への気候変動の影響と確率予測)	国費留学生 インド
31	Maja Ostric	H25.9	Development of Portable Undrained Ring Shear Apparatus and Its Application (ポータブル非排水リングせん断試験機の開発と応用)	国費留学生 クロアチア GCOE-ARS
32	金延洙 Kim Yeonsu	H25.9	Probabilistic Estimation of River Discharge Considering Channel Characteristics Uncertainty with Particle Filters (河道特性の不確定性を考慮した粒子フィルターによる河川流量の確率的推定)	韓国
33	Nor Eliza binti Alias	H26.9	IMPROVING EXTREME PRECIPITATION ESTIMATES CONSIDERING REGIONAL FREQUENCY ANALYSIS (地域頻度解析を考慮した極端降水推定値の精度向上に関する研究)	国費留学生 マレーシア GCOE-ARS
34	段偉利 Duan Weili	H26.9	INTEGRATED ASSESSMENT OF CLIMATE CHANGE AND HUMAN ACTIVITIES IMPACTS ON WATER RESOURCES AND QUALITY (気候変動と人間活動による水資源と水質への影響の総合的評価に関する研究)	中国、 GCOE-ARS
35	永谷 言	H27.3	分布型流出モデルによる流域土砂の生産・移動予測と管理への応用に関する研究	
36	池田鉄哉	H27.5	水防災分野における実効性の高い国際技術協力の実践に関する研究	論博
37	寺本 智子	H27.9	人工衛星リモートセンシングを用いた琵琶湖における水環境解析の基礎的研究	GCOE-ARS
38	DANG QUANG KHANG	H27.9	DEVELOPMENT OF A NEW HIGH-STRESS DYNAMIC-LOADING RING-SHEAR APPARATUS AND ITS APPLICATION TO LARGE-SCALE LANDSLIDES (動的載荷高圧リングせん断試験機の開発と大規模地すべりへの適用)	ベトナム、 GCOE-ARS
39	Bounhieng Vilaysane	H28.1	INTEGRATED IMPACT ASSESSMENT OF CLIMATE CHANGE ON HYDROLOGY OF THE XEDONE RIVER BASIN, LAO PDR (ラオス国セドン川における水文への気候変化の影響に関する統合的評価手法に関する研究)	ラオス、 AUN/SEED-Net 留学生 (JICA 奨学金) GCOE-ARS
40	胡茂川 Hu Maochuan	H28.3	IMPACTS OF CLIMATE CHANGE AND ANTHROPOGENIC ACTIVITIES ON CATCHMENT WATER BALANCE AND	中国、 GCOE-ARS

			HYDROLOGIC EXTREMES (流域水収支と水文極値に対する気候変動及び人間活動の影響)	
41	Joško Trošelj	H28.11	FLUVIAL INFLUENCE ON ESTUARINE SEDIMENT TRANSPORT PROCESSES AND LINKAGE OF ITS OUTFLOW DATA TO COASTAL MODELING (河口土砂輸送過程に及ぼす河川の影響と海岸モデルへの河川流出情報の結合)	国費留学生 クロアチア GCOE-ARS
42	Hendy Setiawan	H29.3	Landslide Hazard Assessment on the Upstream of Dam Reservoir (ダム貯水池の上流域における地すべり災害の評価に関する研究)	国費留学生 インドネシア、 博士課程教育リーディングプログラム (GSS)
43	薛寒 Xue Han	H29.3	HYDROGRAPH-SEPARATION-BASED NON-POINT SOURCE POLLUTION MODELLING IN THE PINGQIAO RIVER BASIN, CHINA (中国平橋川流域を対象にした流出ハイドログラフ成分分離法による非点源汚染モデリングの研究)	中国、博士課程教育リーディングプログラム(GSS)
44	Khai Lin Chong	H29.9	Estimating Time of Concentration by Reflecting Flood Inundation Effects and Hazard Mapping (氾濫の影響を反映した洪水到達時間の推定とハザードマッピング)	マレーシア政府留学生 GCOE-ARS
45	Eva Mia Siska	H30.3	IMPACT OF RAPID DEVELOPMENT GROWTH ON WATER RESOURCES SITUATION IN TOURISM DEPENDENT ECONOMY: A CASE STUDY OF BALI, INDONESIA (観光依存経済圏における高度成長が水資源状況に及ぼす影響:インドネシア国バリ島を対象に)	インドネシア政府留学生、 博士課程教育リーディングプログラム (GSS)
46	Karlina	H30.3	ASSESSMENT OF HYDRO-METEOROLOGICAL DROUGHTS RELATED TO ENSO IN LOMBOK AND SUMATRA ISLANDS, INDONESIA(インドネシア国ロンボク島とスマトラ島を対象にした ENSO の水文気象渇水評価)	インドネシア、 AUN/SEED- Net 留学生 (JICA 奨学金) GCOE-ARS
47	Pham Van Tien	H30.3	MECHANISMS AND HAZARD ASSESSMENT OF RAINFALL-INDUCED LANDSLIDE DAMS (豪雨による地すべりダム発生機構と災害危険度評価)	ベトナム、 博士課程教育リーディングプログラム (GSS)
48	Lam Huu Quang	H30.3	DEVELOPMENT OF HAZARD ASSESSMENT TECHNOLOGY OF THE PRECURSOR STAGE OF LANDSLIDES (前兆段階にある地すべりの災害危険度評価技術の開発)	ベトナム 論博
49 *	石咏雪 Shi Yongxue	H31.3	ANALYZING AND CATEGORIZING FLOOD DISASTER-RELATED TWEETS FOR EMERGENCY RESPONSE (危機対応を目的とした洪水災害関連ツイートの分析と分類)	中国、博士課程教育リーディングプログラム(GSS)
50 *	Pham Hong Nga	R 元.9	Flood risk assessment focusing on intangible vulnerability for rural floodplain area in Central Vietnam (中央ベトナムの農村洪水氾濫域における無形脆弱性に着目した洪水リスクアセスメント)	ベトナム、 JSPS 論博プログラム
51 *	Nguyen Duc Ha	R 元.9	A Coupled Hydrological - Geotechnical Framework for Forecasting Shallow Landslide Hazard - A case study in Halong city, Vietnam (水文学と地盤工学の手法を融合した表層崩壊の発生予測に関する研究)	ベトナム

* 総合生存学館に異動後、工学研究科で副査を務める。

7. 団体歴

自 平成 11 年 10 月 ユネスコ国際水文学計画 (IHP) 東南アジア太平洋地域
 運営委員会 事務局長
 至 平成 24 年 11 月
 自 平成 20 年 6 月 ユネスコ国際水文学計画 (IHP) 政府間理事会 副議長
 至 平成 22 年 7 月
 自 平成 20 年 6 月 ユネスコ国際水文学計画 (IHP) 政府間理事会日本代表団
 団長 (平成 20、22、24、26 年の 4 期)
 至 平成 26 年 6 月
 自 平成 16 年 9 月 中国・中山大学 客座教授
 至 現 在
 自 平成 19 年 9 月 国際連合国際防災戦略 (UNISDR) 学術・技術委員会委員
 至 平成 24 年 8 月
 自 平成 20 年 10 月 国際連合大学 客員教授
 至 現 在
 自 平成 21 年 12 月 日本ユネスコ国内委員会 委員
 至 平成 27 年 11 月
 自 平成 20 年 10 月 日本学術会議 連携会員 (第 21-22 期、第 23-24 期)
 至 現 在
 自 平成 14 年 12 月 特定非営利活動法人アイシーエル (国際斜面災害研究機構)
 理事長
 至 平成 20 年 12 月
 自 平成 21 年 1 月 特定非営利活動法人アイシーエル (国際斜面災害研究機構)
 副会長
 至 平成 26 年 12 月
 自 平成 25 年 1 月 国際水資源学会 (IWRA) 理事
 至 平成 27 年 12 月
 自 平成 29 年 4 月 日本自然災害学会 会長
 至 令和 2 年 3 月
 自 平成 30 年 9 月 水文・水資源学会 会長
 至 現 在

8. 関連委員会等

省庁・都道府県等	委員会等名	任期
文部科学省	科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 防災の研究開発に関する委員会(第4期) 専門委員	H19.3～H21.1
文部科学省	科学技術・学術審議会 臨時委員 研究計画・評価分科会 防災分野の研究開発に関する委員会(第5期)	H21.3～H23.1
文部科学省	科学技術・学術審議会 臨時委員 研究計画・評価分科会 防災科学技術委員会(第6期)	H23.2～H25.1
文部科学省	科学技術・学術審議会 臨時委員 研究計画・評価分科会 防災科学技術委員会(第7期)	H25.3～現在
文部科学省	独立行政法人評価委員会 臨時委員(科学技術・学術分科会) 防災科学技術研究所部会	H15.3～現在
文部科学省	宇宙開発委員会 特別委員 地球観測特別部会	H16.11～H20.3
文部科学省	科学技術・学術審議会 臨時委員 研究計画・評価分科会 地球観測推進部会	H21.5～H23.1
文部科学省	科学技術・学術審議会 臨時委員 研究計画・評価分科会 地球観測推進部会	H23.2～H25.1
文部科学省	科学技術・学術審議会 臨時委員 研究計画・評価分科会 地球観測推進部会	H25.3～現在
文部科学省 (株)三菱総合研究所)	防災のための地球観測衛星などの利用に関する検討会議 委員	H18.2～H20.3
文部科学省・(独)防災科学技術研究所	国際的な防災科学技術情報基盤形成に関する懇談会 座長	H18.12～H21.3
建設省	水防活動の高度化に関する検討委員会 委員	H11.3～H12.3
国土交通省	気候変動の洪水・濁水影響と対応に関する検討委員会 委員	H13.12～H15.3
国土交通省	淀川水系流域委員会 委員	H19.8～H21.8
国土交通省	琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度 委員	H16.3～H26.3
国土交通省	琵琶湖湖南流域水害に強い地域づくり協議会 座長	H16.7～H24.3
国土交通省	地球温暖化に伴う大規模水害対策検討会 委員	H21.12～H23.3
兵庫県	都市河川の防災ソフト対策検討委員会 委員	H11.1～H12.12
兵庫県	河川審議会 特別委員	H18～現在
大阪府	都市型水害対策検討委員会 委員	H22.3～H23.2
滋賀県	淡海の川づくり検討委員会 委員	H13.3～H23.9
敦賀市	敦賀市洪水ハザードマップ検討委員会 委員長	H15.9～H16.3 H19.10～H20.3
京都大学防災研究所	自然災害研究協議会 議長	H23.4～H25.3
静岡大学	静岡大学防災総合センター 外部評価委員	H25.3～H25.6
日本自然災害学会	庶務担当 常任理事	H14.4～H17.3

日本自然災害学会	理事・評議員	H17.4～現在
(公社)土木学会	水工学委員会 委員長	H23.6～H25.5
(独)科学技術振興機構	地球規模課題国際協力事業 推進委員会 委員	H20.3.～H24.3
(独)科学技術振興機構	地球規模課題国際科学技術協力プログラム(SATREPS) 推進委員会 委員	H24.4～現在
(独)科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力事業 H20 年度分科会(審査委員会 防災分野)委員	H20.5～H21.4
(独)科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力事業 H21 年度分科会(審査委員会 防災分野)委員	H21.11～H22.3
(独)科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力事業 H22 年度分科会(審査委員会 防災分野)委員	H22.11～H23.3
(独)科学技術振興機構	国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム H23 年度分科会(審査委員会 防災分野)委員	H23.12～H24.6
(独)科学技術振興機構	国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム H24 年度分科会(審査委員会 防災分野)委員	H24.12～現在
(独)科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム H23 年度分科会(国内領域別評価会 防災分野)委員	H23.5～H24.3
(独)科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム H24 年度分科会(国内領域別評価会 防災分野「開発途上国のニーズを踏まえた防災科学技術」)委員	H24.4～H25.3
(独)科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム 推進委員会 H25 年度分科会(国内領域別評価会 防災分野「開発途上国のニーズを踏まえた防災科学技術」)委員	H25.4～現在
(独)海洋研究開発機構	次世代スーパーコンピューター戦略プログラム分野 3「防災・減災に資する地球変動予測」運営委員会 委員	H22.3～H25.3
(財)河川情報センター	河川砂防技術基準改定検討委員会 委員	H22.11～現在
(一財)河川情報センター	理事(非常勤)	H19.4～現在
(特)日本水フォーラム	理事(非常勤)	H16.4～現在
世界銀行	防災グローバル・ファシリティー(GFDRR) 成果運営審議会(RMC) 委員	H22.1～現在
国連国際防災戦略 (UNISDR)	学術・技術委員会(STC) 委員	H19.9～H24.8
(独)科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム 研究主幹(防災分野)	H26.4～現在
文部科学省	防災科学技術委員会委員長	H30.4～現在